

令和4年度

# 県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

令和4年10月

福島県



# 目次

	頁
I 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査実施概要	1
3. 調査項目	1
4. 回答者の構成	2
II 調査結果の解説	
1. 復興等に関する情報発信について	
(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報	5
(2) 復興状況や新しい取組に関する情報の入手先	6
(3) 福島県の広報活動についての満足度	7
(4) 福島県の現状について県外に伝えたいこと	9
2. 安全で安心な県づくりについて	
(1) 地域の安全・安心についての評価	10
3. 福島県の新しい総合計画について	
(1) 福島県の現状についての評価	12
4. 福島イノベーション・コースト構想について	
(1) 福島イノベーション・コースト構想について知っている取組	15
(2) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、 県に強化してほしい取組	17
(3) 福島イノベーション・コースト構想の効果をもたらすための施策	18
5. チャレンジふくしま県民運動について	
(1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況	19
(2) 心身の健康づくりの実践状況	20
(3) 心身の健康づくりの実践頻度	21
(4) 心身の健康づくりを実践していない理由	22
6. 水に関する意識について	
(1) 水道の資源の認知状況	23
(2) 水についての心配や不安	24
(3) 水と親しむ場所	25
(4) 水との触れ合い方の変化	26
(5) 「水」に関わる地域活動やボランティア活動への参加状況	27
(6) 将来にわたって水を利用していくために取り組みたいこと	28
7. 生物多様性について	
(1) 「生物多様性」という言葉の認知状況	29
(2) 「外来生物」という言葉の認知状況	30
(3) 震災前と比較した自然環境の変化	31
(4) 行政の取組として最も重要だと思うこと	32
(5) 生物多様性に配慮したライフスタイルとしての取り組み	33
8. エシカル消費（倫理的消費）について	
(1) 「エシカル消費」という言葉の認知状況	34
(2) 「エシカル消費」という言葉の情報元	35
(3) エシカル消費につながる行動の実践状況	36
(4) エシカル消費につながる行動の実践内容	37

9. 自転車の安全利用について	
(1) 自転車損害賠償保険の加入義務化の認知状況	38
(2) 自転車損害賠償保険の加入義務化の情報元	39
(3) 自転車の利用頻度	40
(4) 自転車損害賠償保険の加入状況	41
(5) 加入している自転車損害賠償保険の種類	42
(6) 自転車損害賠償保険に加入していない理由	43
(7) 危険と感じる自転車運転について	44
10. 少子化対策について	
(1) 結婚のメリット(利点)	45
(2) 結婚のデメリット(欠点)	46
(3) 利用した施策	47
(4) 国・県・市町村に期待する施策	48
11. 農林水産業について	
(1) 農林水産物の購入や食生活で実践していること	50
(2) 農山漁村の役割として期待すること	51
12. 地域社会の安全・安心(治安)について	
(1) 居住地域の治安状況	52
(2) 治安状況が良いと思う理由	53
(3) 治安状況が悪いと思う理由	54
(4) 犯罪発生状況等の情報提供方法	55
(5) 犯罪に関して知りたい情報	56
(6) 警察に強化してほしい活動	57
(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪	58
(8) 身近に感じる不安	60
III 調査票様式	
IV 過去に実施した県政世論調査項目一覧	

●本報告書利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は百分比(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。  
したがって、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100%にならないことがある。また、複数回答の質問では、比率の合計は100%を超えることがある。
2. 図表中の「n」は回答者総数(該当者への質問の場合は該当者数)のことで、100%が何人に相当するかを示す、比率算出の基数である。

# I 調査の概要



## 1. 調査の目的

県政の課題等について県民の意識やニーズを調査し、具体的な政策形成等の基礎的な資料とする。

## 2. 調査実施概要

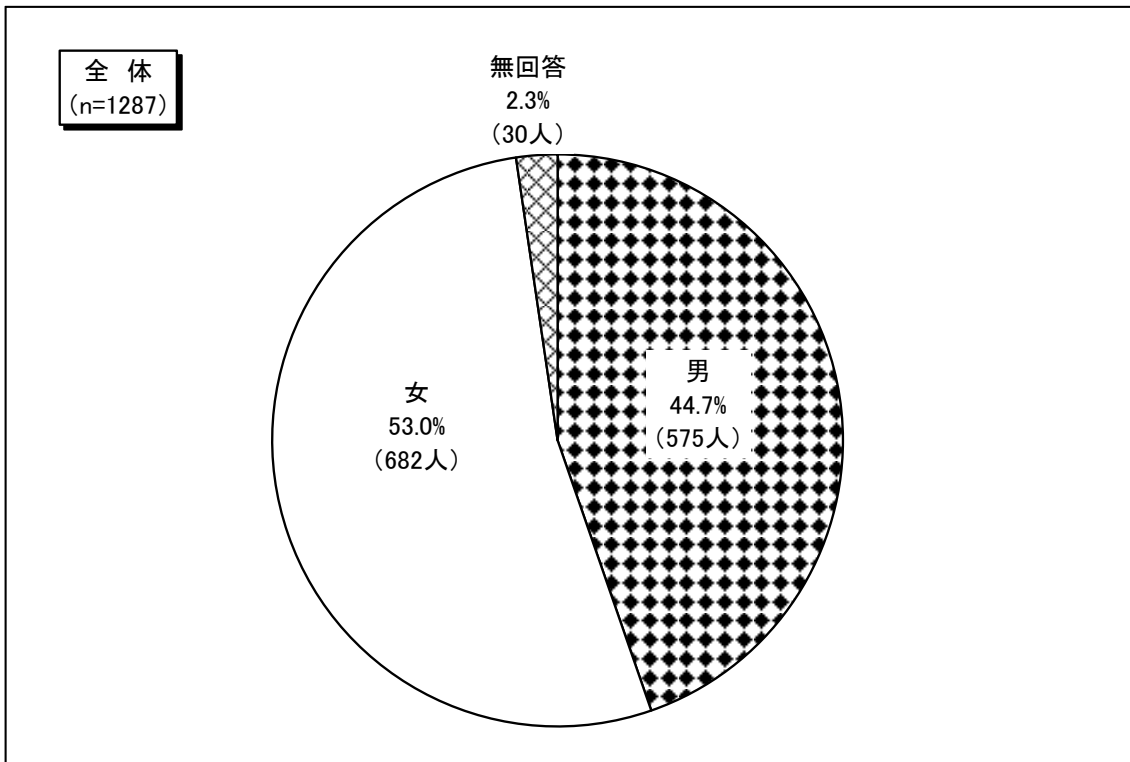
- |          |   |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | 福島県全域（32市町村を抽出）   |
| (2) 調査対象 | 満15歳以上の男女個人   |
| (3) 標本数  | 2,000（人）  |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出<br>第1次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内7地域をそれぞれ「総人口10万人以上の市」「総人口10万人未満の市」「郡部（町村）」の3グループに分け、各グループを1つの層とした。<br>各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。<br>第2次抽出：第1次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。 |
| (5) 基準日  | 令和4年7月1日<br>（抽出にあたっては上記年月日現在の満年齢を基準とした）   |
| (6) 調査方法 | ・郵送による調査票の配布<br>・郵送又はインターネットによる回答   |
| (7) 調査期間 | 令和4年6月27日～7月11日   |
| (8) 回収結果 | 有効回収数1,287（有効回収率64.4%）  |

## 3. 調査項目

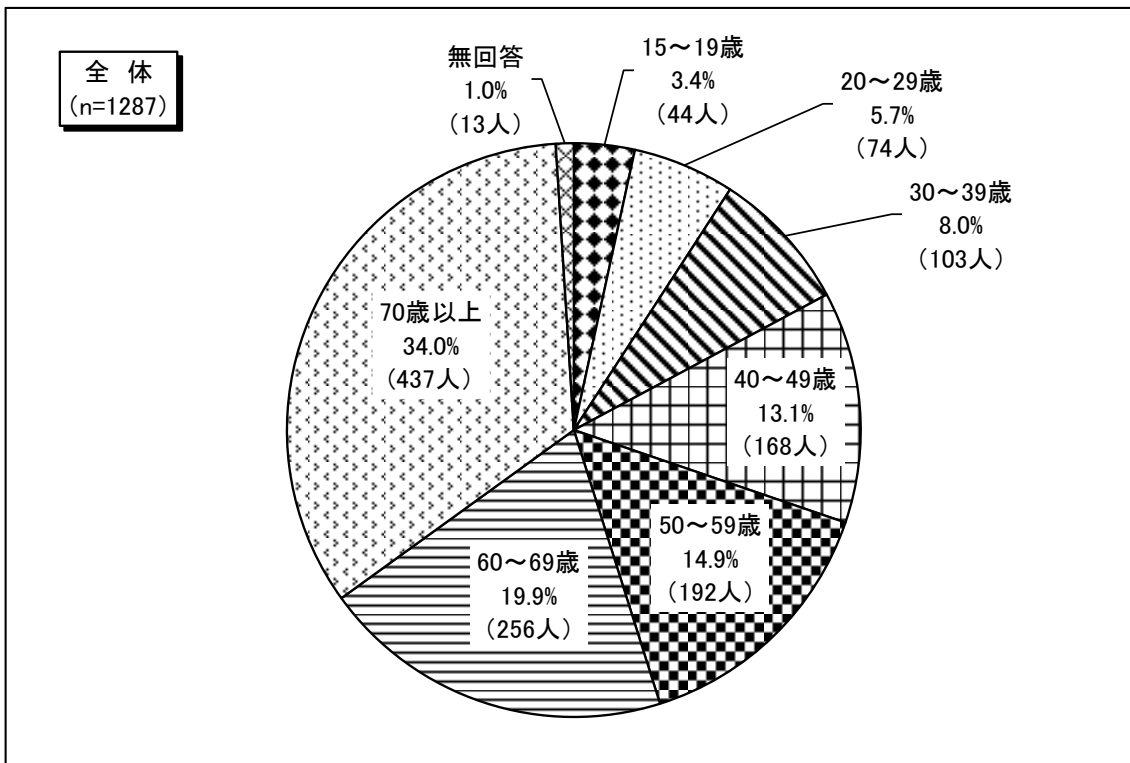
- (1) 復興等に関する情報発信について
- (2) 安全で安心な県づくりについて
- (3) 福島県の新しい総合計画について
- (4) 福島イノベーション・コースト構想について
- (5) チャレンジふくしま県民運動について
- (6) 水に関する意識について
- (7) 生物多様性について
- (8) エシカル消費（倫理的消費）について
- (9) 自転車の安全利用について
- (10) 少子化対策について
- (11) 農林水産業について
- (12) 地域社会の安全・安心（治安）について

#### 4. 回答者の構成

##### (1) 性別

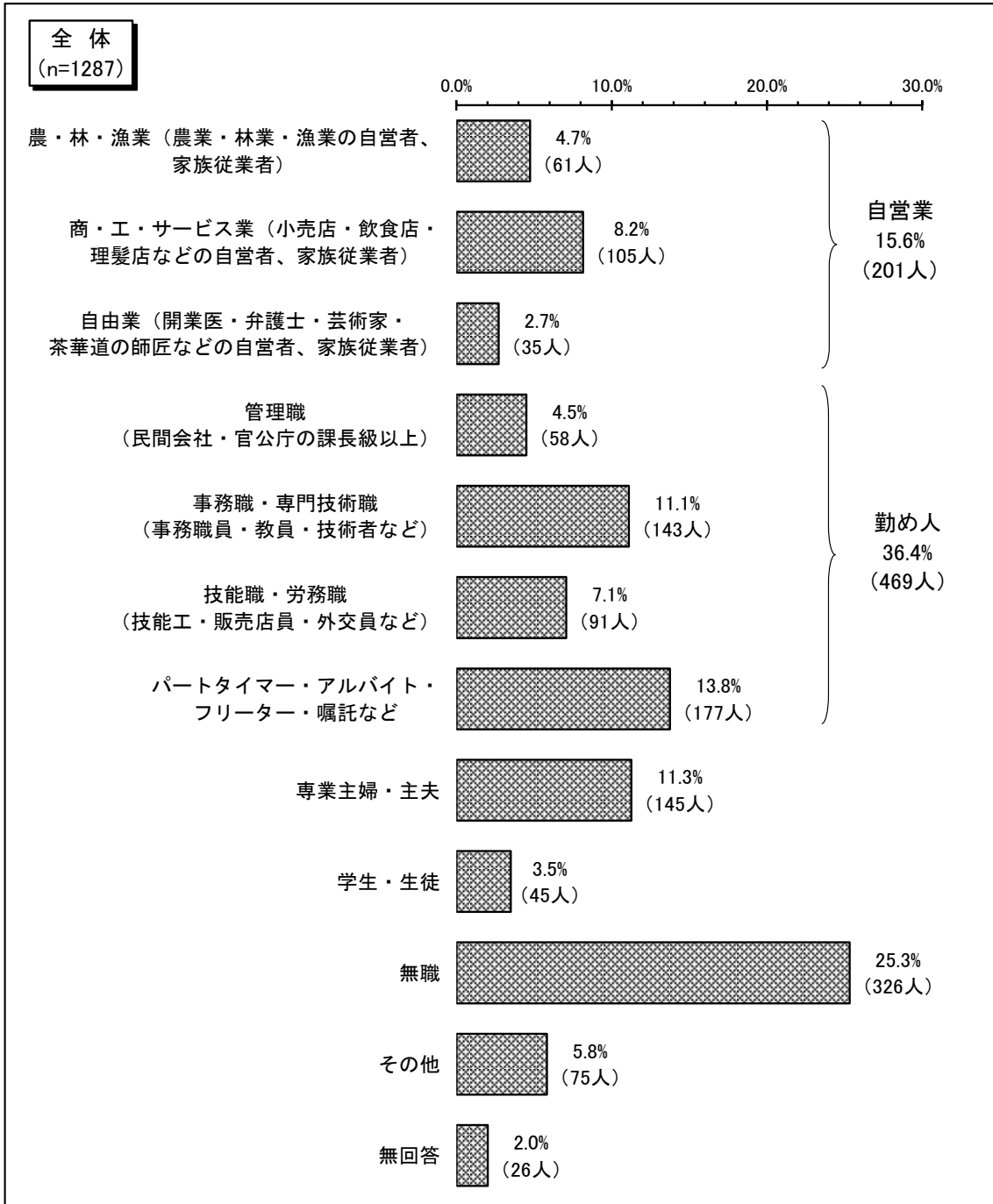


##### (2) 年齢

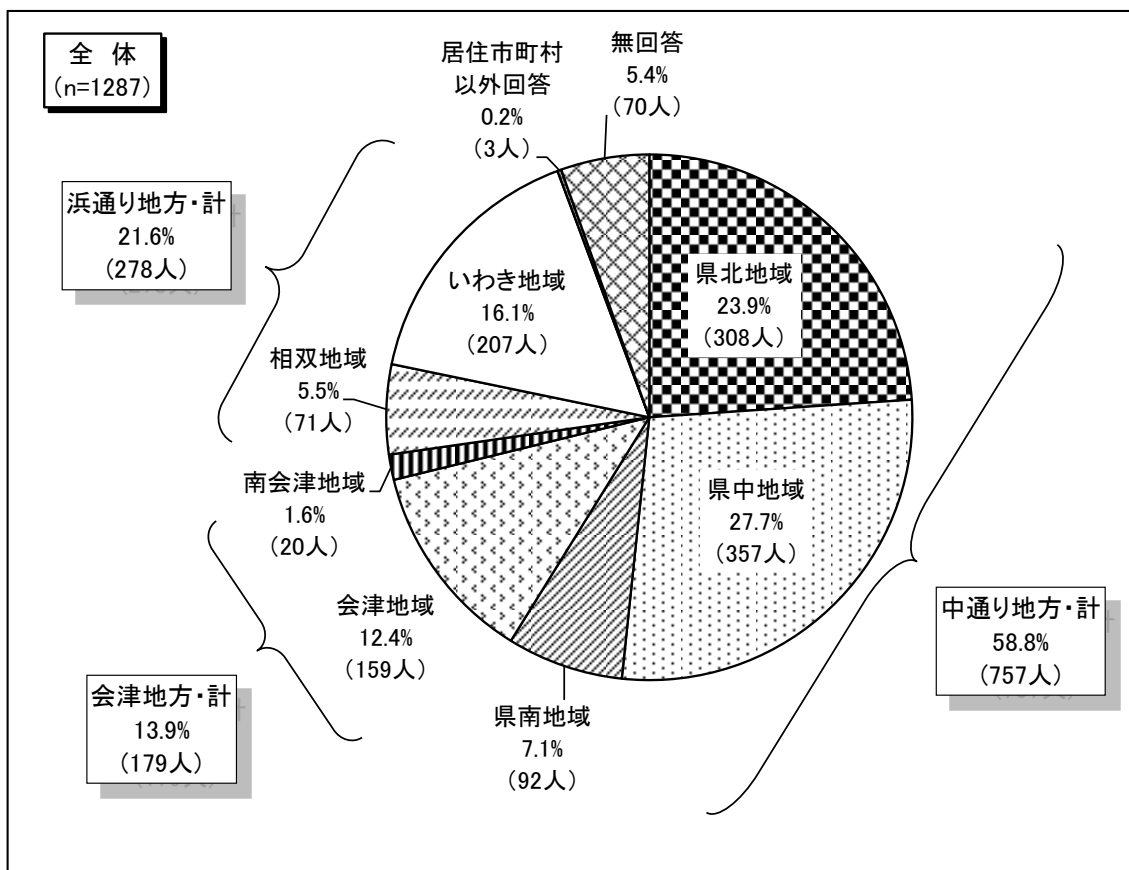




(3) 職業



(4) 居住地域



市町村別回答者数

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
中 通 り 地 方	県北地域	福島市	200	15.5
		二本松市	37	2.9
		伊達市	39	3.0
		本宮市	16	1.2
		桑折町	12	0.9
		川俣町	4	0.3
		郡山市	222	17.2
	県中地域	須賀川市	50	3.9
		田村市	25	1.9
		鏡石町	14	1.1
		石川町	12	0.9
		玉川村	13	1.0
		浅川町	8	0.6
		三春町	13	1.0
県南地域	白河市	41	3.2	
	西郷村	14	1.1	
	泉崎村	11	0.9	
	矢吹町	12	0.9	
	矢祭町	14	1.1	

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)	
会 津 地 方	会津地域	会津若松市	88	6.8	
		喜多方市	25	1.9	
		北塩原村	9	0.7	
		猪苗代町	12	0.9	
		会津坂下町	14	1.1	
		会津美里町	11	0.9	
		下郷町	6	0.5	
	A 南会津町	14	1.1		
	浜 通 り 地 方	相双地域	相馬市	25	1.9
			南相馬市	31	2.4
榎葉町			3	0.2	
B いわき市	207	16.1			
		居住市町村以外回答	3	0.2	
		居住市町村別無回答	70	5.4	
		全 体	1,287	100.0	

A 南会津地域  
B いわき地域

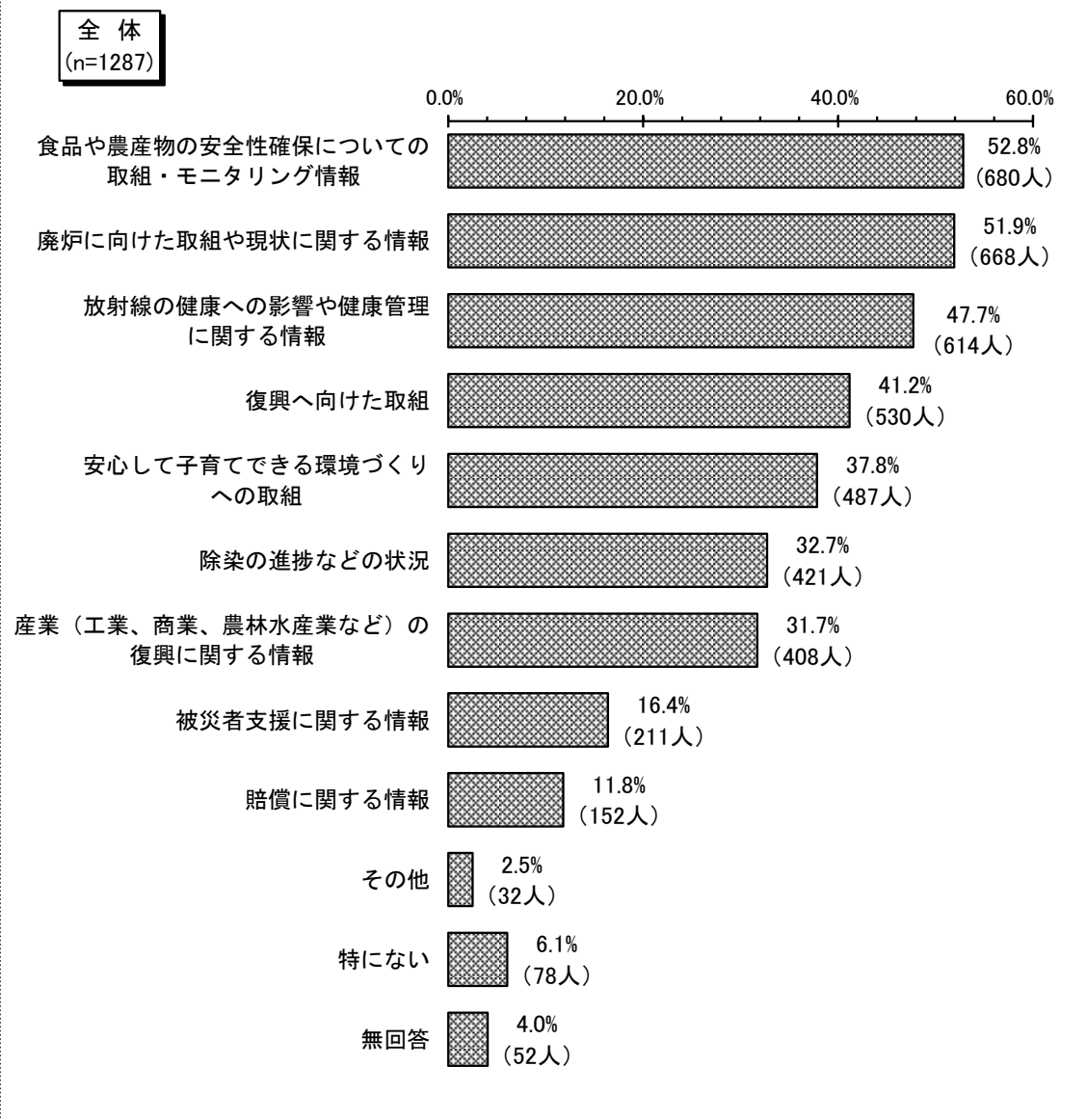
## Ⅱ 調査結果の解説



# 1. 復興等に関する情報発信について

## (1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報

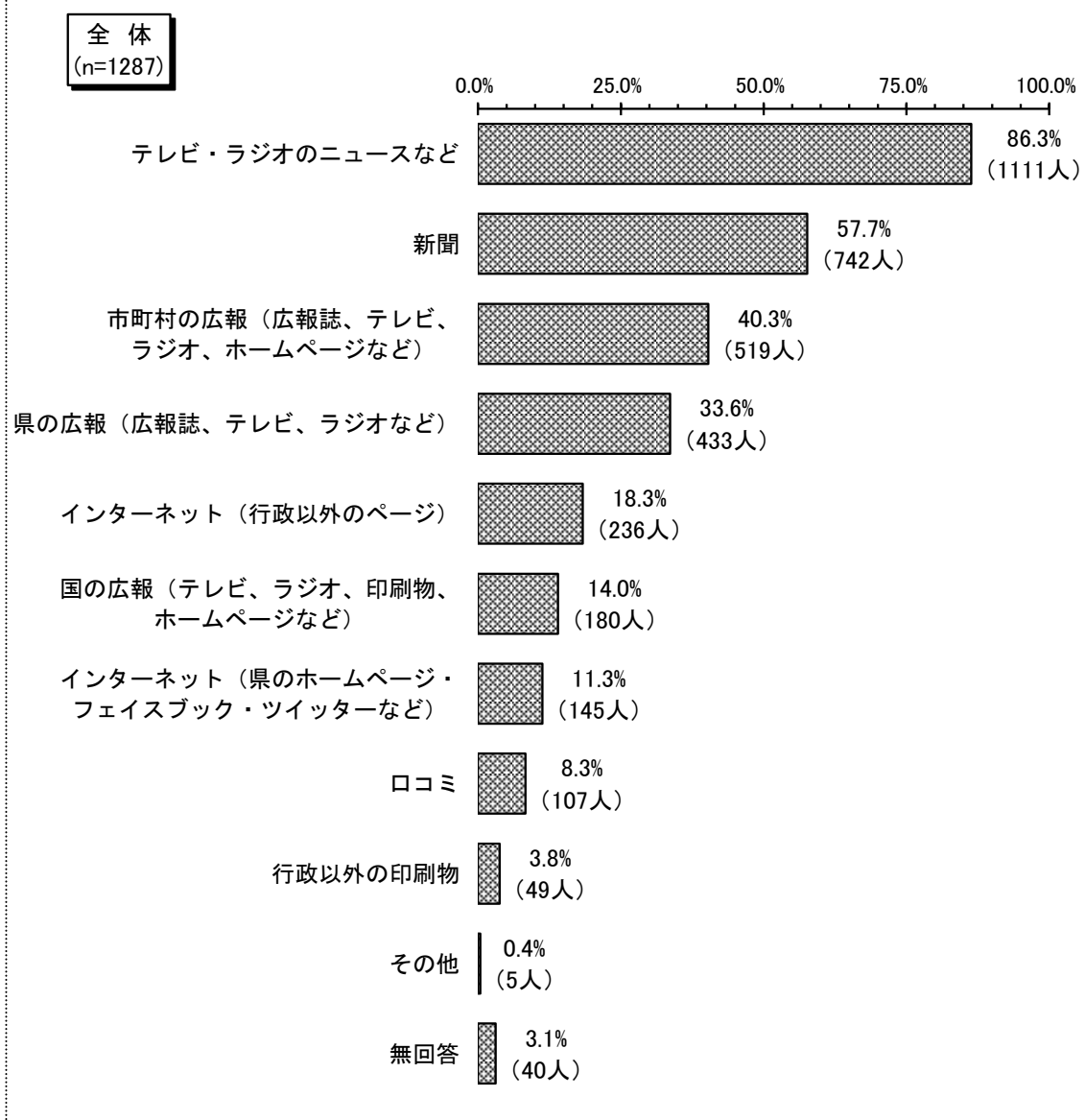
問1 震災・原発事故や復興について、あなたはどのような情報を知りたいですか。  
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



震災・原発事故や復興について知りたい情報は、「食品や農産物の安全性確保についての取組・モニタリング情報」(52.8%)、「廃炉に向けた取組や現状に関する情報」(51.9%)が約半数を占めている。以下、「放射線の健康への影響や健康管理に関する情報」(47.7%)、「復興へ向けた取組」(41.2%)が4割台、「安心して子育てできる環境づくりへの取組」(37.8%)、「除染の進捗などの状況」(32.7%)、「産業（工業、商業、農林水産業など）の復興に関する情報」(31.7%)が3割台などとなっている。

## (2) 復興状況や新しい取組に関する情報の入手先

問2 本県の復興の状況や新しい取組に関する情報については主に何で入手していますか。  
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

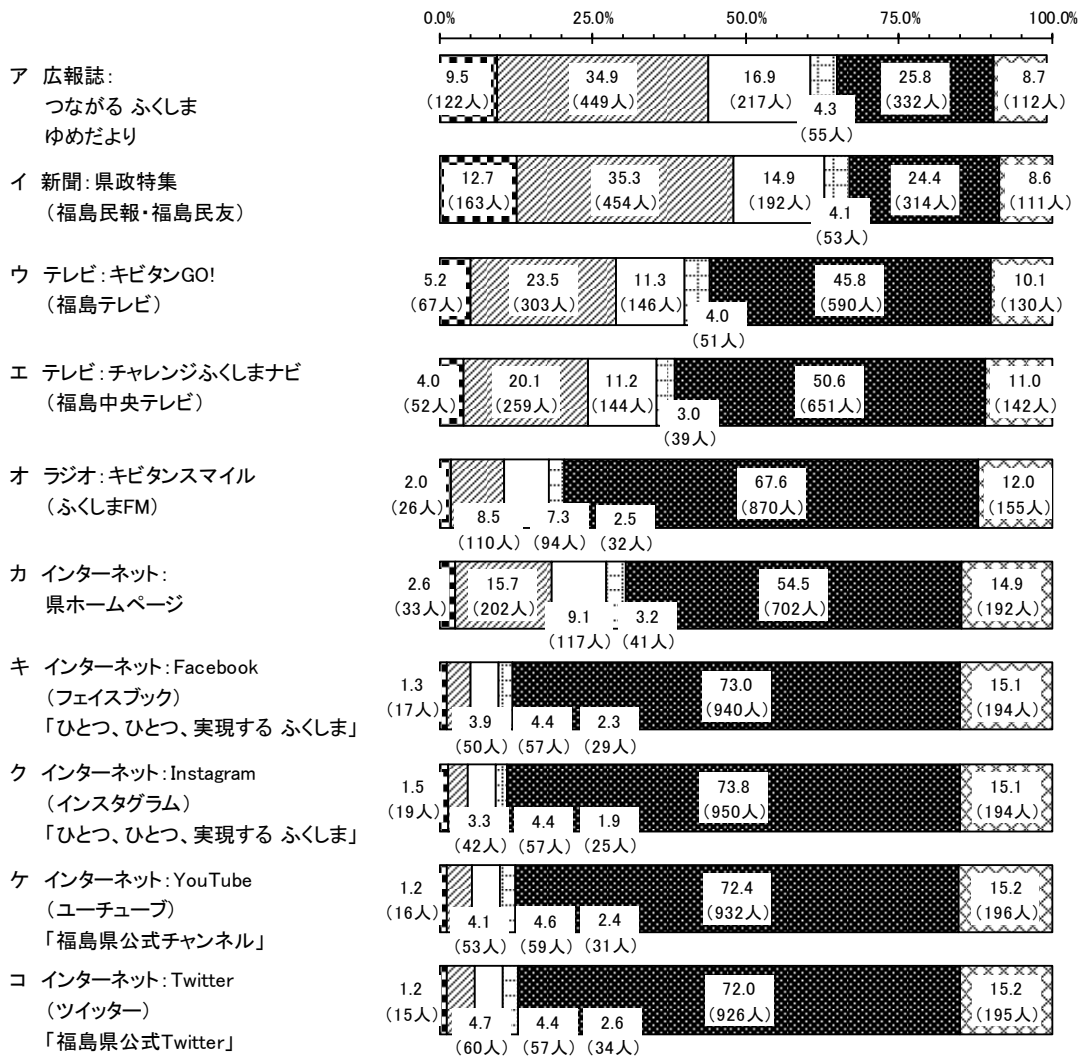
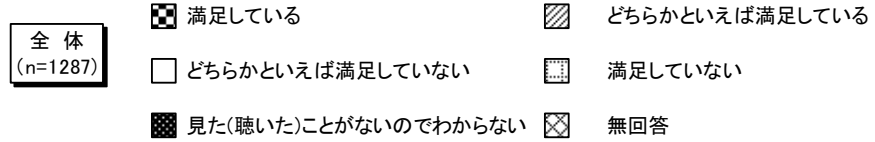


復興の状況や新しい取組に関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオのニュースなど」(86.3%)が最も多く、8割強を占めている。以下、「新聞」(57.7%)が6割弱、「市町村の広報(広報誌、テレビ、ラジオ、ホームページなど)」(40.3%)が約4割、「県の広報(広報誌、テレビ、ラジオなど)」(33.6%)が3割強などとなっている。

### (3) 福島県の広報活動についての満足度

問3 あなたは、県の広報活動に満足していますか。

ア～コについて、それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



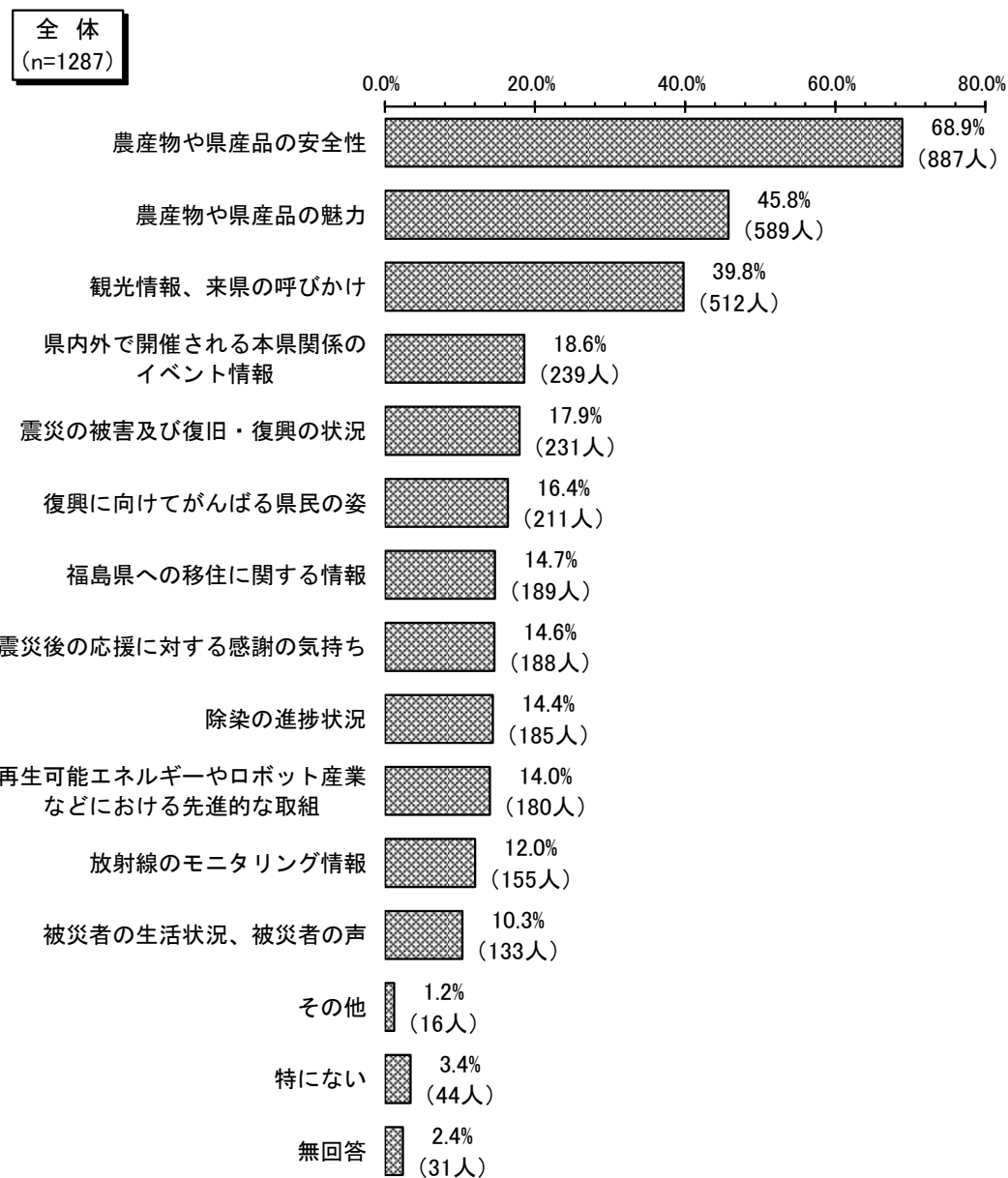
福島県の広報活動に「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足している』計の割合をみると、〈イ 新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（47.9%）が最も高くなっている。以下、〈ア 広報誌『つながる ふくしま ゆめだより』〉（44.4%）が4割半ば、〈ウ テレビ『キビタンGO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（28.7%）、〈エ テレビ『チャレンジふくしまナビ（福島中央テレビ：毎週金曜日 19:56～20:00）』〉（24.2%）が2割台などとなっている。

一方、「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」を合わせた『満足していない』計の割合は、〈ア 広報誌『つながる ふくしま ゆめだより』〉（21.1%）が約2割で最も高くなっている。次いで、〈イ 新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（19.0%）が続いている。以下、〈ウ テレビ『キビタンGO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（15.3%）、〈エ テレビ『チャレンジふくしまナビ（福島中央テレビ：毎週金曜日 19:56～20:00）』〉（14.2%）などとなっている。



#### (4) 福島県の現状について県外に伝えたいこと

問4 あなたは、県外の方に、福島県のどのようなことを伝えるべきだと思いますか。  
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



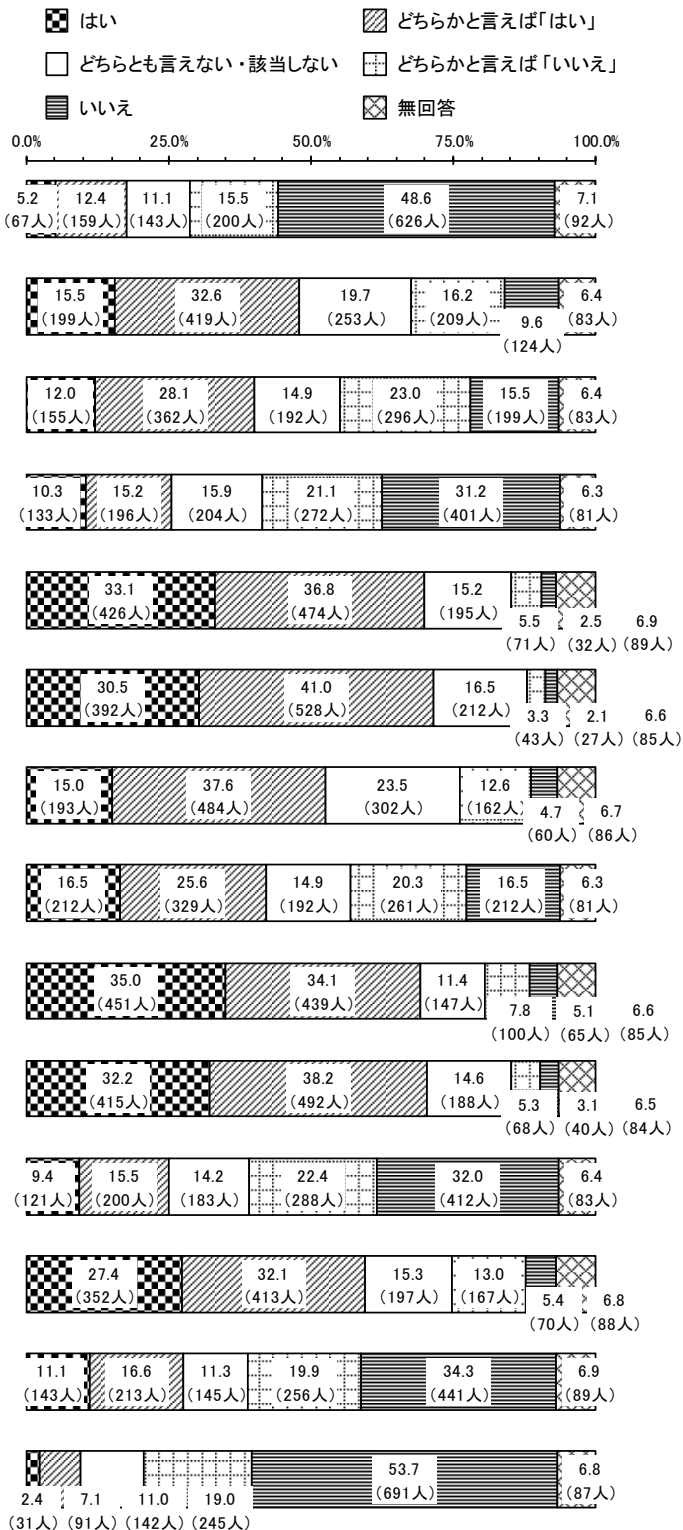
福島県の現状について県外に伝えたいことは、「農産物や県産品の安全性」(68.9%)が最も多く、約7割を占めている。以下、「農産物や県産品の魅力」(45.8%)が半数弱、「観光情報、来県の呼びかけ」(39.8%)が約4割などとなっている。

## 2. 安全で安心な県づくりについて

### (1) 地域の安全・安心についての評価

問5 次にあげたア～セの項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。  
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体  
(n=1287)



「はい」と回答した人の割合をみると、〈ケ あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(35.0%)が最も高くなっている。以下、〈オ 現在、あなたが住んでいる地域(仮設住宅・借り上げ住宅も含む)の治安は良いと思いますか。〉(33.1%)、〈コ あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(32.2%)などとなっている。

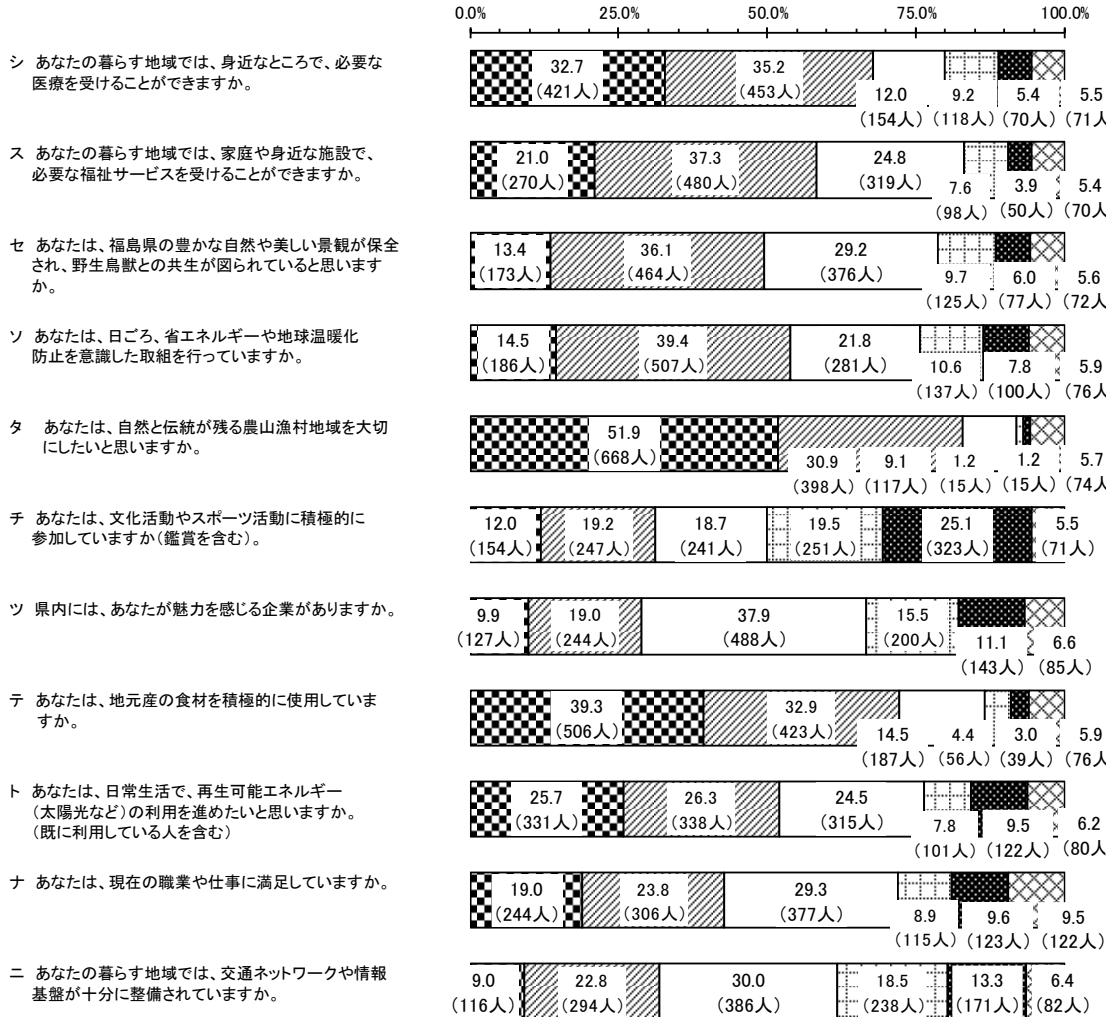
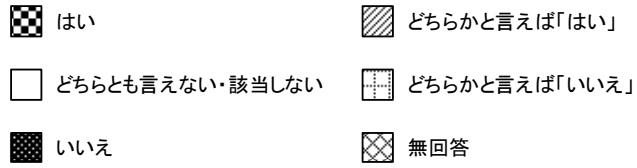
「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈カ あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(71.5%)が最も高く、約7割を占めている。以下、〈コ あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(70.5%)、〈オ 現在、あなたが住んでいる地域(仮設住宅・借り上げ住宅も含む)の治安は良いと思いますか。〉(69.9%)と〈ケ あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(69.2%)が約7割、〈シ あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。〉(59.4%)、〈キ あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。〉(52.6%)が5割台、〈イ あなたの暮らす地域は、自然災害や大規模な火災などに対して、安心して暮らせる災害に強い地域だと思いますか。〉(48.0%)と〈ウ あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食料の備蓄などを行っていますか。〉(40.2%)が4割台で続いている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈セ 「ふくしまマイ避難ノート」を活用するなどして、自分(自宅)の避難計画を作成していますか。〉(72.7%)が最も高く、7割強を占めている。以下、〈ア あなたは、住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。〉(64.2%)が6割強などとなっている。



[2/2]

全体  
(n=1287)



「はい」と回答した人の割合は、〈イ あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(62.6%)が最も高く、6割強となっている。次いで、〈タ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いませんか。〉(51.9%)が約半数を占めている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈タ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いませんか。〉(82.8%)が高く、8割強を占めている。以下、〈イ あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(74.4%)、〈テ あなたは、地元産の食材を積極的に使用していますか。〉(72.2%)が7割台、〈シ あなたの暮らす地域では、身近なところで、必要な医療を受けることができますか。〉(67.9%)、〈サ あなたは、今暮らしている地域が住みやすいと思いませんか。〉(66.9%)、〈ウ あなたは、福島県で子育てを行いたいと思いませんか(あなたが親の立場に立ったと仮定してご回答願います)。〉(61.4%)、〈オ あなたは、日ごろ、人と人の支え合いや絆を実感していますか。〉(60.0%)が6割台、〈ス あなたの暮らす地域では、家庭や身近な施設で、必要な福祉サービスを受けることができますか。〉(58.3%)、〈ク あなたは、国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)がありますか。〉、〈ソ あなたは、日ごろ、省エネルギーや地球温暖化防止を意識した取組を行っていますか。〉(ともに53.8%)、〈ト あなたは、日常生活で、再生可能エネルギー(太陽光など)の利用を進めたいと思いませんか(既に利用している人を含む)。〉(52.0%)が5割台などとなっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈ア あなたは、「福島県総合計画」を知っていますか。〉(78.3%)が最も高く、8割弱を占めている。以下、〈チ あなたは、文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していますか(鑑賞を含む)。〉(44.6%)、〈キ あなたの暮らす地域では、女性の社会参画が進んでいると思いませんか。〉(32.5%)などとなっている。

## 4. 福島イノベーション・コースト構想について

### (1) 福島イノベーション・コースト構想※について知っている取組

#### ※福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想とは

福島イノベーション・コースト構想（福島・国際研究産業都市構想）とは、東日本大震災と原子力災害によって大きな被害を受けた浜通り地域等の産業を回復するため、この地域を新たな産業が次々と生まれる場所にすることを目指すものです。

構想を実現するために、以下の分野を中心に取り組んでいます。

#### ・原子力発電所の廃炉に向けた取組

廃炉国際共同研究センター（富岡町）での研究開発、地元企業を廃炉産業へ参入しやすくするための取組など

#### ・ロボット産業を活発にするための取組

福島ロボットテストフィールド（南相馬市）を活用したロボット・ドローン等の実証実験など

#### ・新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組

福島水素エネルギー研究フィールド（浪江町）での研究開発など

#### ・農林水産業を再生するために新しい技術を広める取組

自動運転トラクター、ドローンによる農薬散布など

#### ・医療関連で利用できる技術を支える取組

健康状態の分析・確認ができる衣類の開発など

#### ・航空宇宙で利用できる技術を支える取組

空飛ぶクルマの開発など

#### ・子どもの教育や地域の働き手を育てるための取組

ふたば未来学園中学校・高等学校（広野町）での教育活動、大学や地元企業等の力を借りた特色ある教育プログラムなど

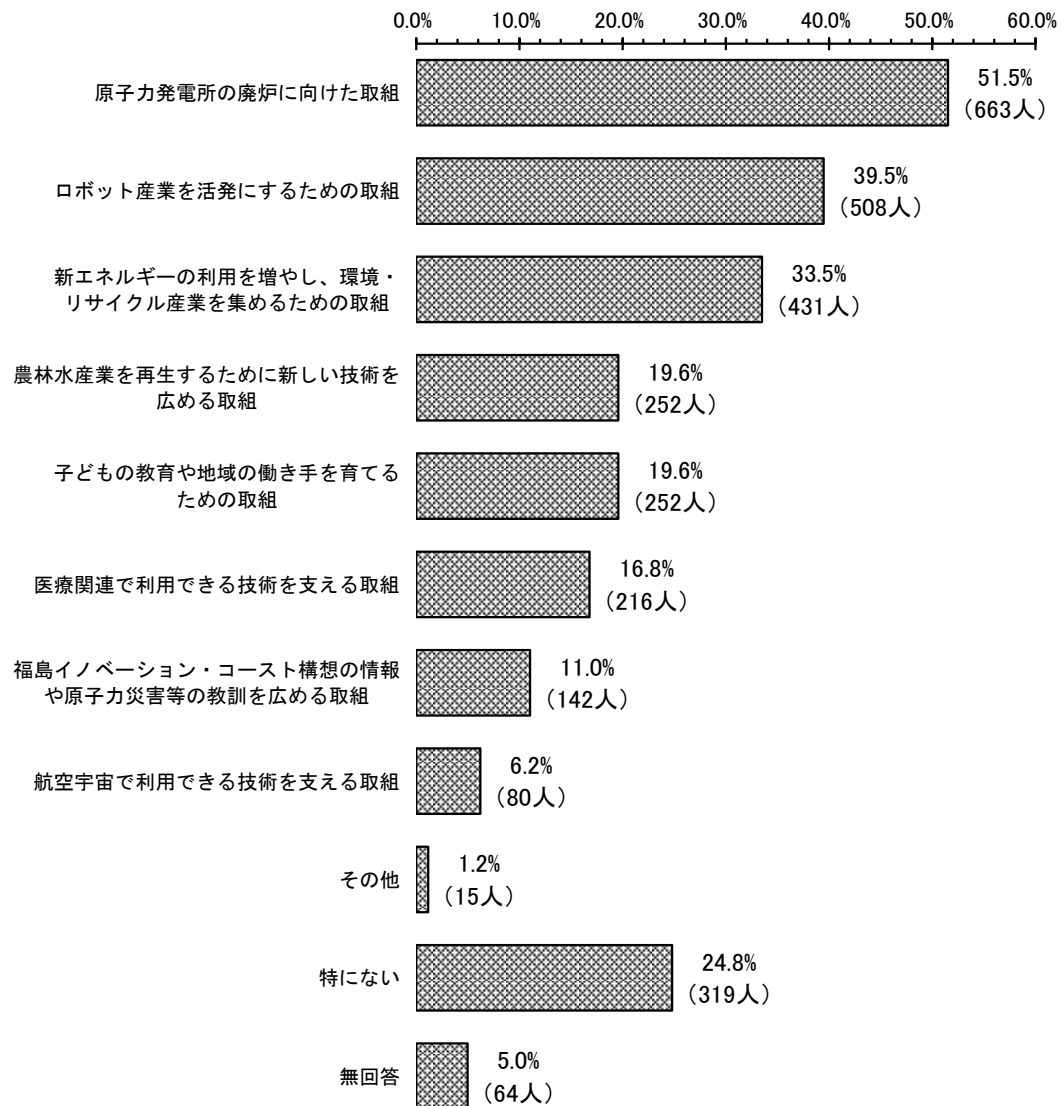
#### ・福島イノベーション・コースト構想の情報や原子力災害等の教訓を広める取組

スタンプラリーやインターネット（ホームページ、フェイスブックなど）での情報発信、東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）など

問7 福島イノベーション・コースト構想について、あなたはどのような取組を知っていますか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

全体  
(n=1287)

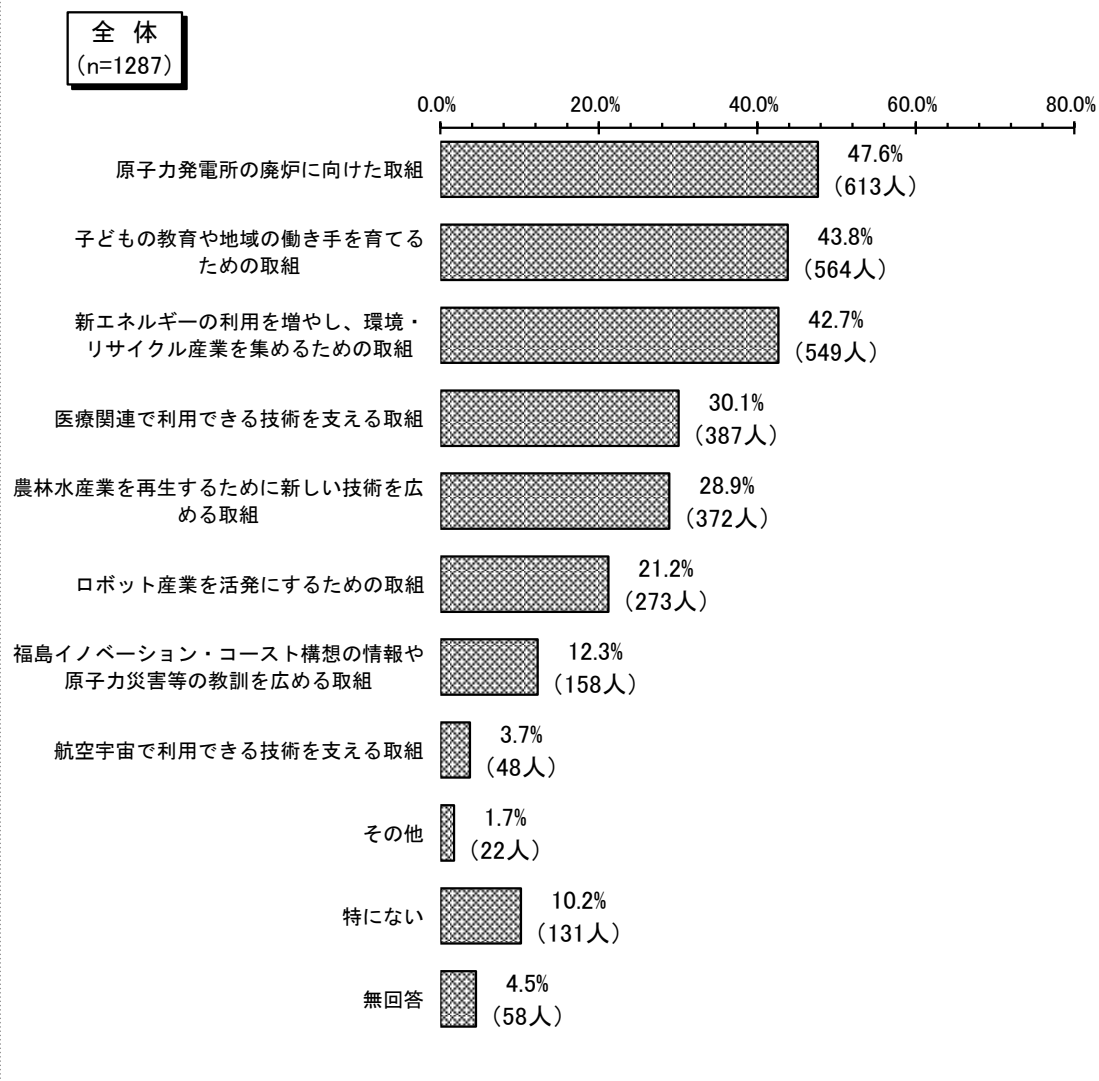


福島イノベーション・コースト構想について知っている取組は、「原子力発電所の廃炉に向けた取組」(51.5%)が最も多く、過半数を占めている。以下、「ロボット産業を活発にするための取組」(39.5%)、「新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組」(33.5%)が3割台などとなっている。



(2) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取組

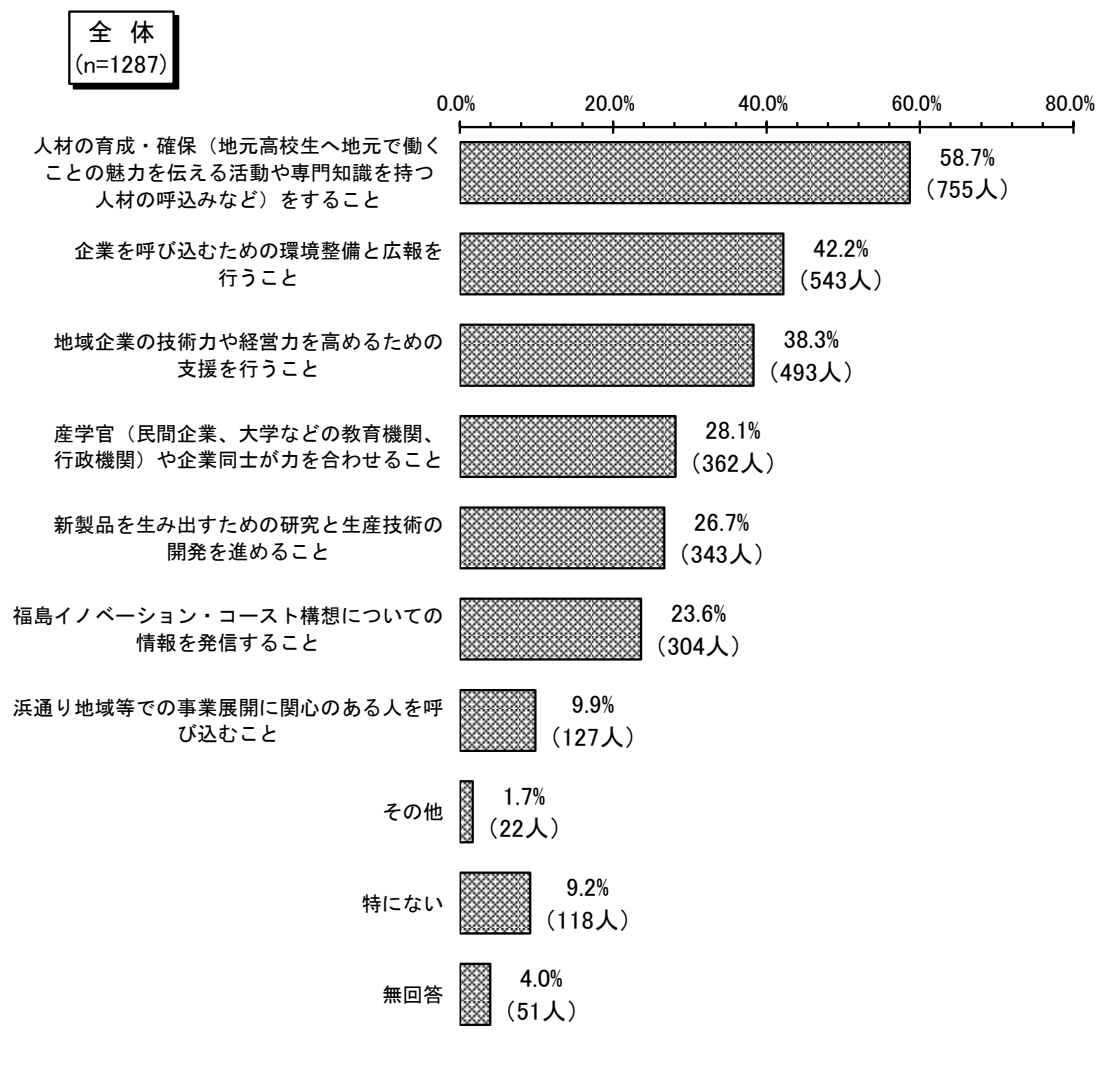
問8 今後、福島イノベーション・コースト構想を進めていくために、県はどのような分野の取組を強化していけばよいと考えますか。あてはまるもの3つまで○をつけてください。



福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取組については、「原子力発電所の廃炉に向けた取組」(47.6%)が最も多く、5割弱を占めている。以下、「子どもの教育や地域の働き手を育てるための取組」(43.8%)と「新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組」(42.7%)が4割台、「医療関連で利用できる技術を支える取組」(30.1%)が約3割となっている。

### (3) 福島イノベーション・コースト構想の効果をもたらすための施策

問9 今後、これらの取組をさらに進めるとともに、その効果がより地域の皆さんに届くようにするためには、どのような施策がよいと考えますか。  
 あてはまるもの3つまで○をつけてください。

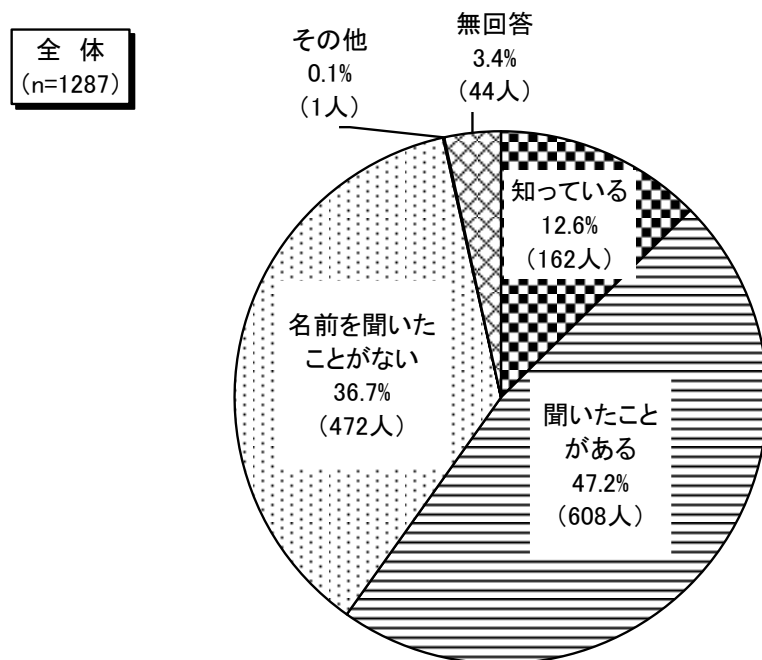


福島イノベーション・コースト構想の効果をもたらすための施策については、「人材の育成・確保（地元高校生へ地元で働くことの魅力を伝える活動や専門知識を持つ人材の呼び込みなど）をすること」（58.7%）が最も多く、約6割となっている。以下、「企業を呼び込むための環境整備と広報を行うこと」（42.2%）、「地域企業の技術力や経営力を高めるための支援を行うこと」（38.3%）が約4割、「産学官（民間企業、大学などの教育機関、行政機関）や企業同士が力を合わせることを」（28.1%）が約3割などとなっている。

## 5. チャレンジふくしま県民運動について

### (1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況

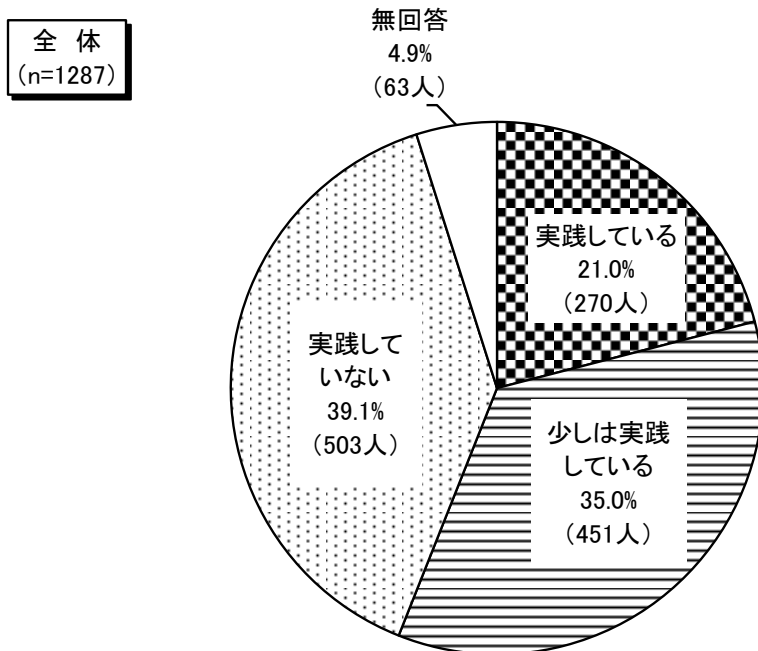
問10 「健康」をテーマとしたチャレンジふくしま県民運動について、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



チャレンジふくしま県民運動の認知状況については、「知っている」(12.6%)と「聞いたことがある」(47.2%)を合わせると約6割の人に認知されているが、「名前を聞いたことがない」(36.7%)が4割弱いる。

## (2) 心身の健康づくりの実践状況

問 11 例えば、減塩、ウォーキング（ウォークビズ※含む）など軽い運動、サークル活動のような心身の健康づくりを最近行っていますか。  
最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



※【参考】ウォークビズとは

健康づくりのため、歩きやすい靴や服装で通勤・勤務すること。

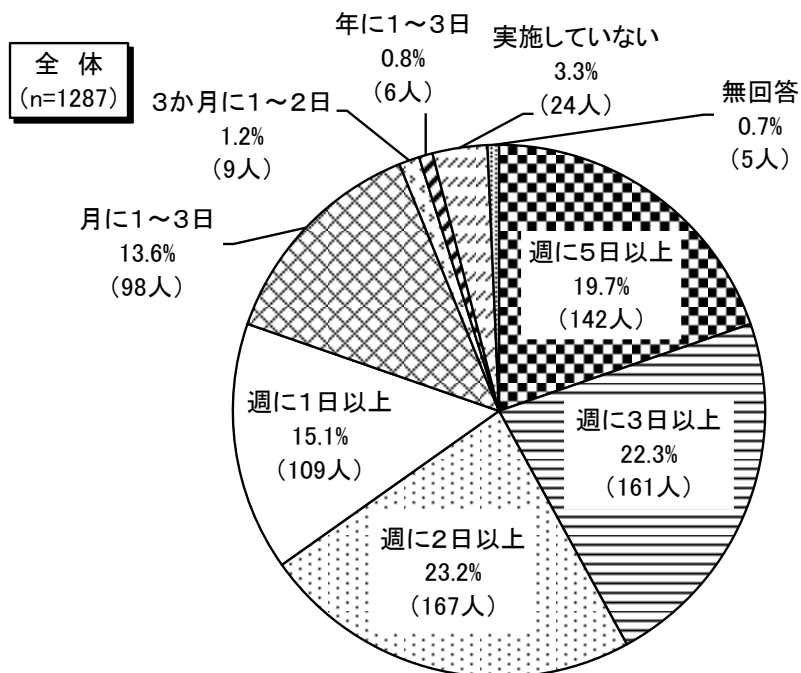
心身の健康づくりの実践状況については、「実践している」(21.0%)と「少しは実践している」(35.0%)を合わせると半数以上の人は何らかの健康づくりを実践しており、「実践していない」(39.1%)は4割弱である。

### (3) 心身の健康づくりの実践頻度

(問11で「1」又は「2」と回答した方にお尋ねします。)

問12 あなたは、この1年間にどの程度の頻度で運動(ウォーキング等の軽い運動含む)やスポーツを実施されましたか。

最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



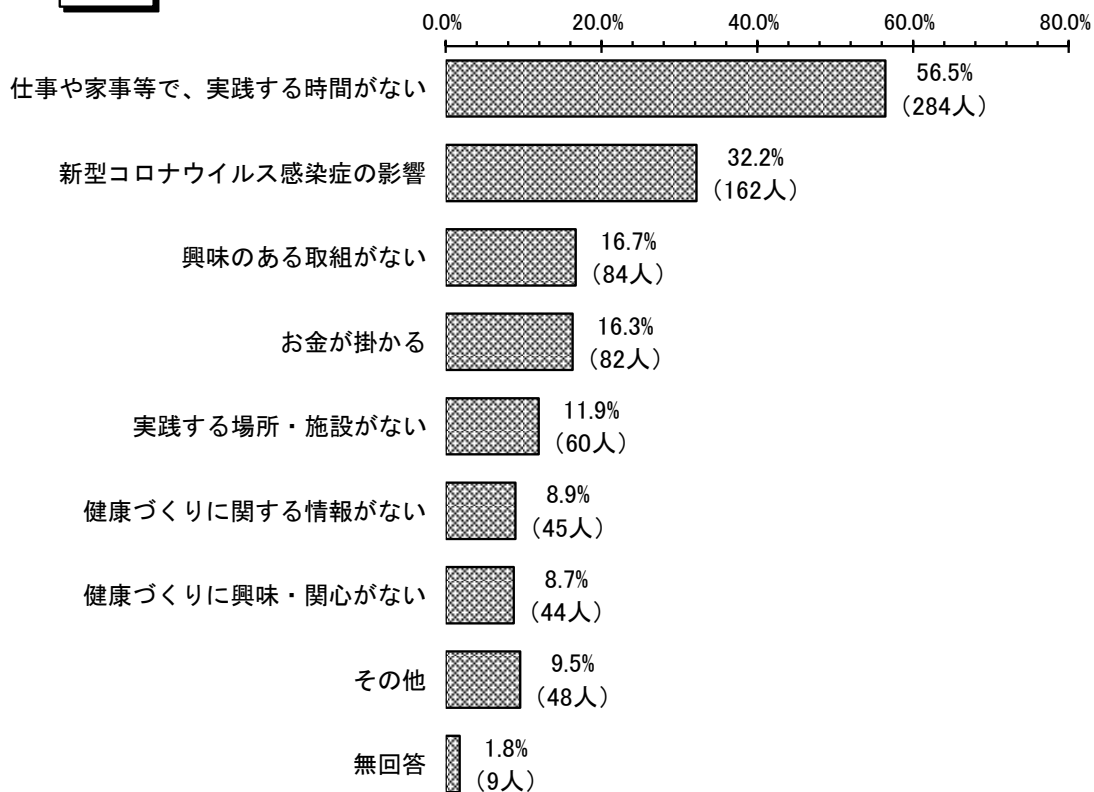
心身の健康づくりの実践頻度については、「週に2日以上」(23.2%)が最も多くなっている。次いで、「週に3日以上」(22.3%)、「週に5日以上」(19.7%)、「週に1日以上」(15.1%)が続いている。

#### (4) 心身の健康づくりを実践していない理由

(問11で「3 実践していない」と回答した方にお尋ねします。)

問13 健康づくりを実践していない理由について、  
あてはまるものにもいくつでも○を付けてください。

全体  
(n=503)

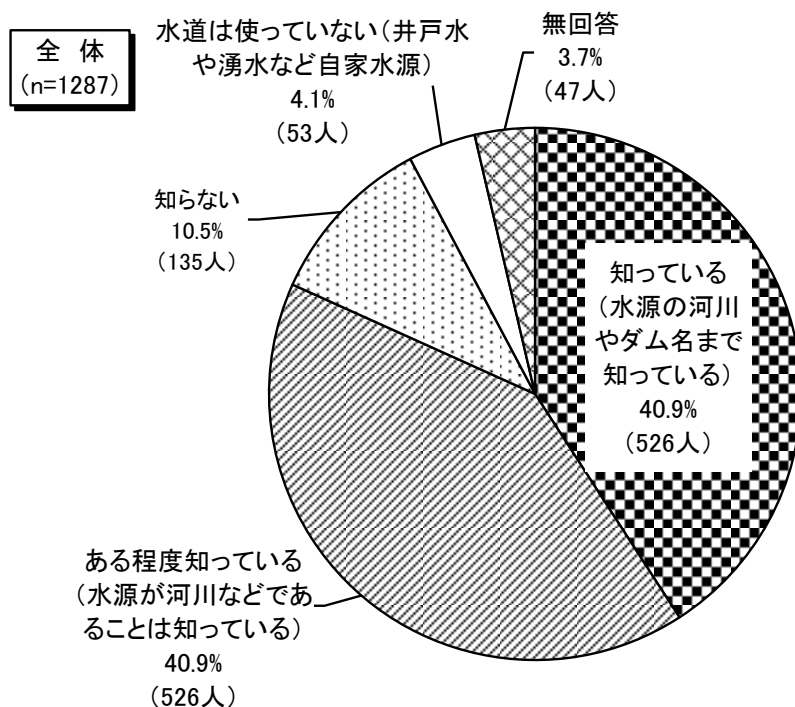


心身の健康づくりを実践していない理由は、「仕事や家事等で、実践する時間がない」(56.5%)が最も多く、6割弱となっている。以下、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響」(32.2%)が3割強、「興味のある取組がない」(16.7%)、「お金が掛かる」(16.3%)が2割弱などとなっている。

## 6. 水に関する意識について

### (1) 水道の資源の認知状況

問 14 あなたの使っている水道の水源は何かご存じですか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。

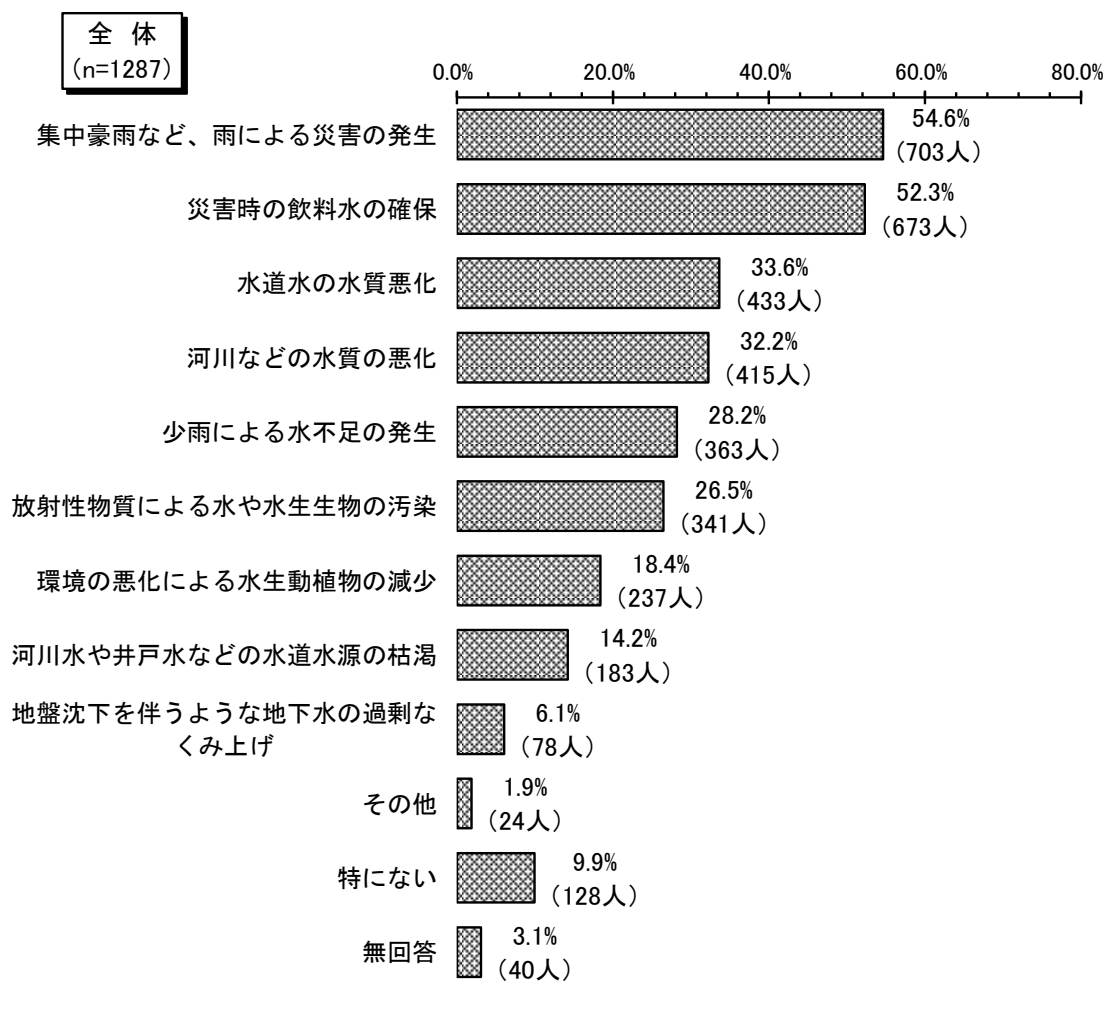


水道の水源について、「知っている (水源の河川やダム名まで知っている)」、「ある程度知っている (水源が河川などであることは知っている)」(ともに 40.9%) の割合が最も高く、それぞれ約 4 割となっている。「知らない」(10.5%) は約 1 割となっている。

## (2) 水についての心配や不安

問 15 あなたは、水についての心配や不安を感じたことはありますか。

あてはまるものいくつかでも○をつけてください。



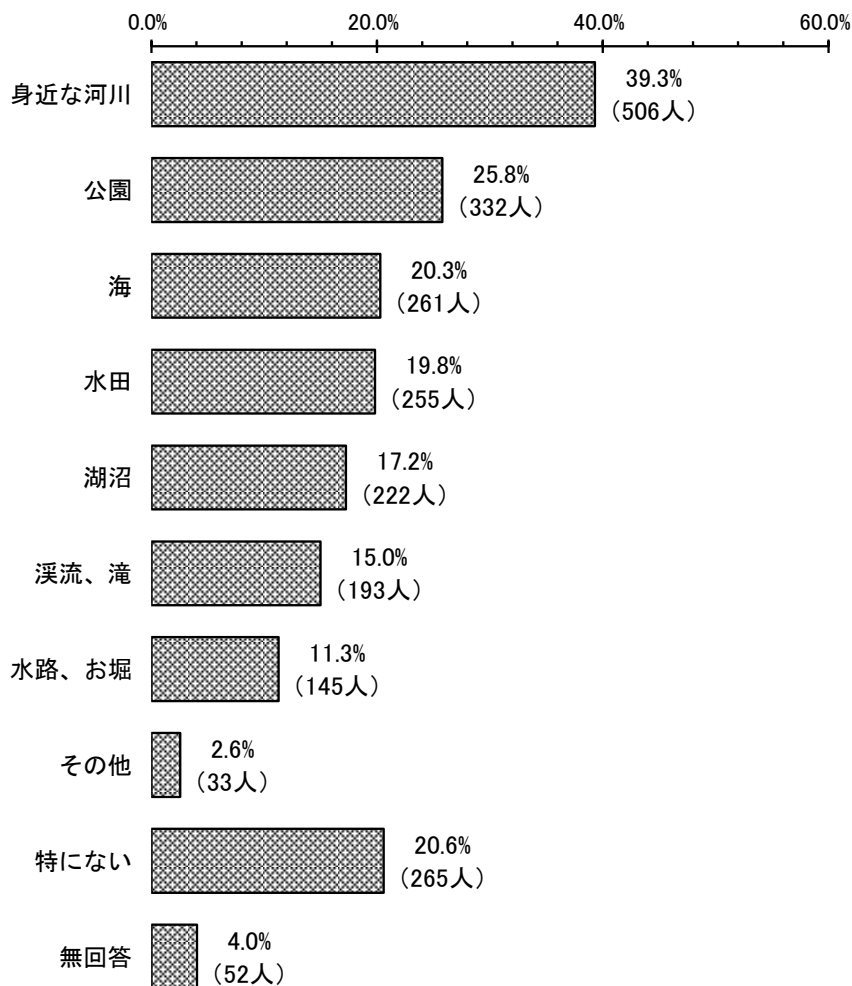
水についての心配や不安を感じたことは、「集中豪雨など、雨による災害の発生」(54.6%)の割合が最も多く、5割半ばとなっている。以下、「災害時の飲料水の確保」(52.3%)が5割台、「水道水の水質悪化」(33.6%)、「河川などの水質の悪化」(32.2%)が3割台、「少雨による水不足の発生」(28.2%)、「放射性物質による水や水生生物の汚染」(26.5%)が2割台となっている。



### (3) 水と親しむ場所

問 16 どのような場所で水に触れて水と親しんでいますか（水遊びや魚釣りなどを含む）。  
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

全体  
(n=1287)

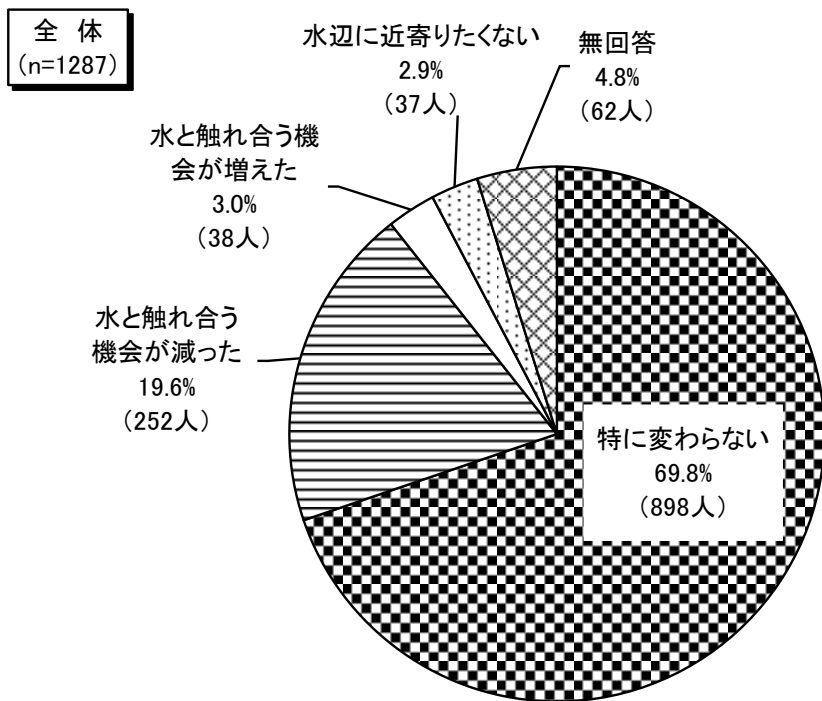


水に触れて水と親しむ場所としては、「身近な河川」(39.3%)の割合が最も多く、約4割となっている。以下、「公園」(25.8%)が2割半ば、「海」(20.3%)、「水田」(19.8%)が約2割で続いている。「特にない」(20.6%)は、約2割となっている。

#### (4) 水との触れ合い方の変化

問17 ここ5年程度の間に、水との触れ合い方に変化はありましたか  
(水遊びや魚釣りなどを含む)。

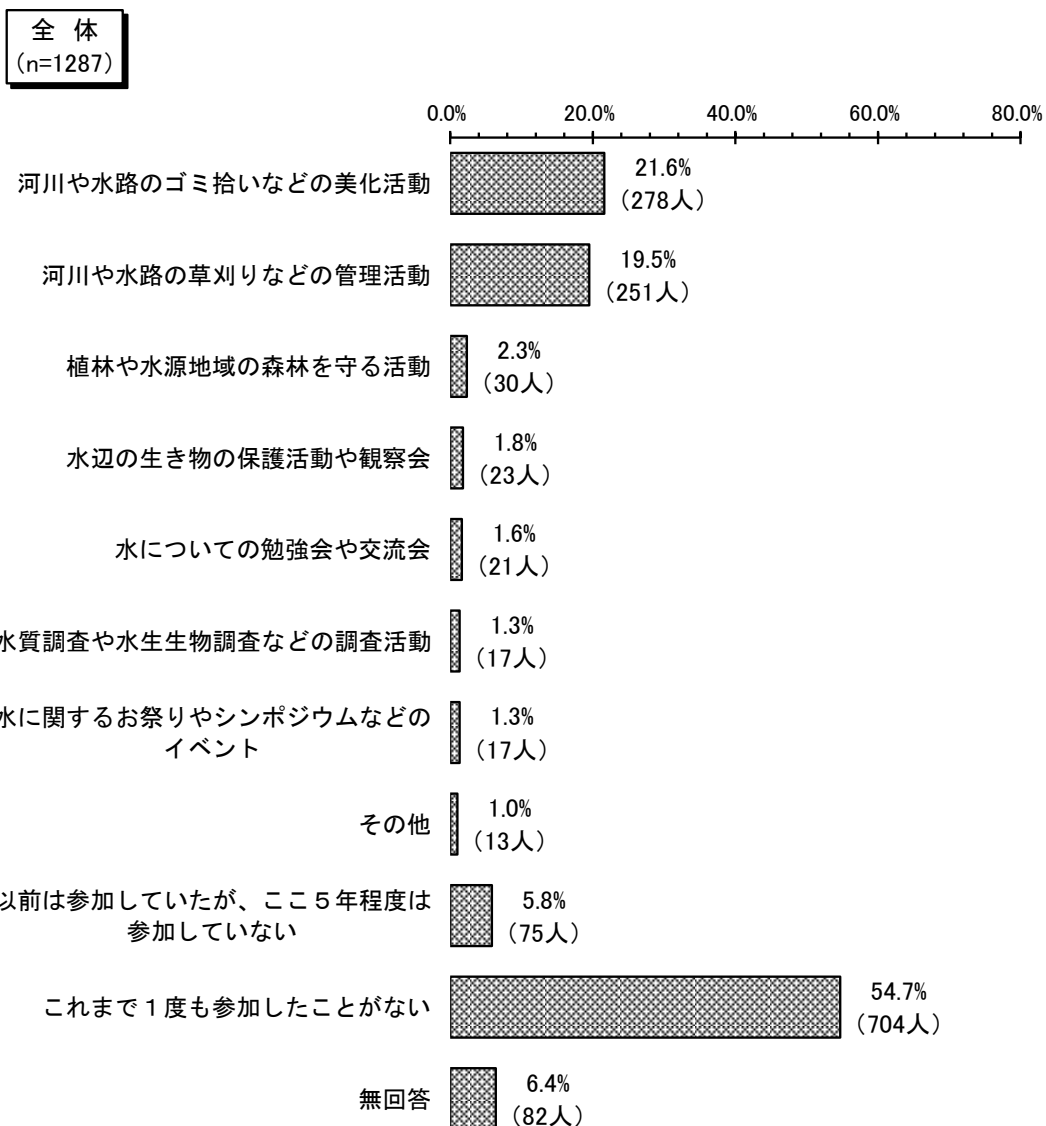
あてはまるもの1つに○をつけてください。



水との触れ合い方の変化は、「特に変わらない」(69.8%)の割合が最も多く、約7割となっている。「水と触れ合う機会が減った」(19.6%)が約2割、「水と触れ合う機会が増えた」(3.0%)は1割未満となっている。

## (5) 「水」に関わる地域活動やボランティア活動への参加状況

問 18 ここ5年程度の間に、「水」に関わる地域活動やボランティア活動に参加していますか。あてはまるものにもいくつか○をつけてください。



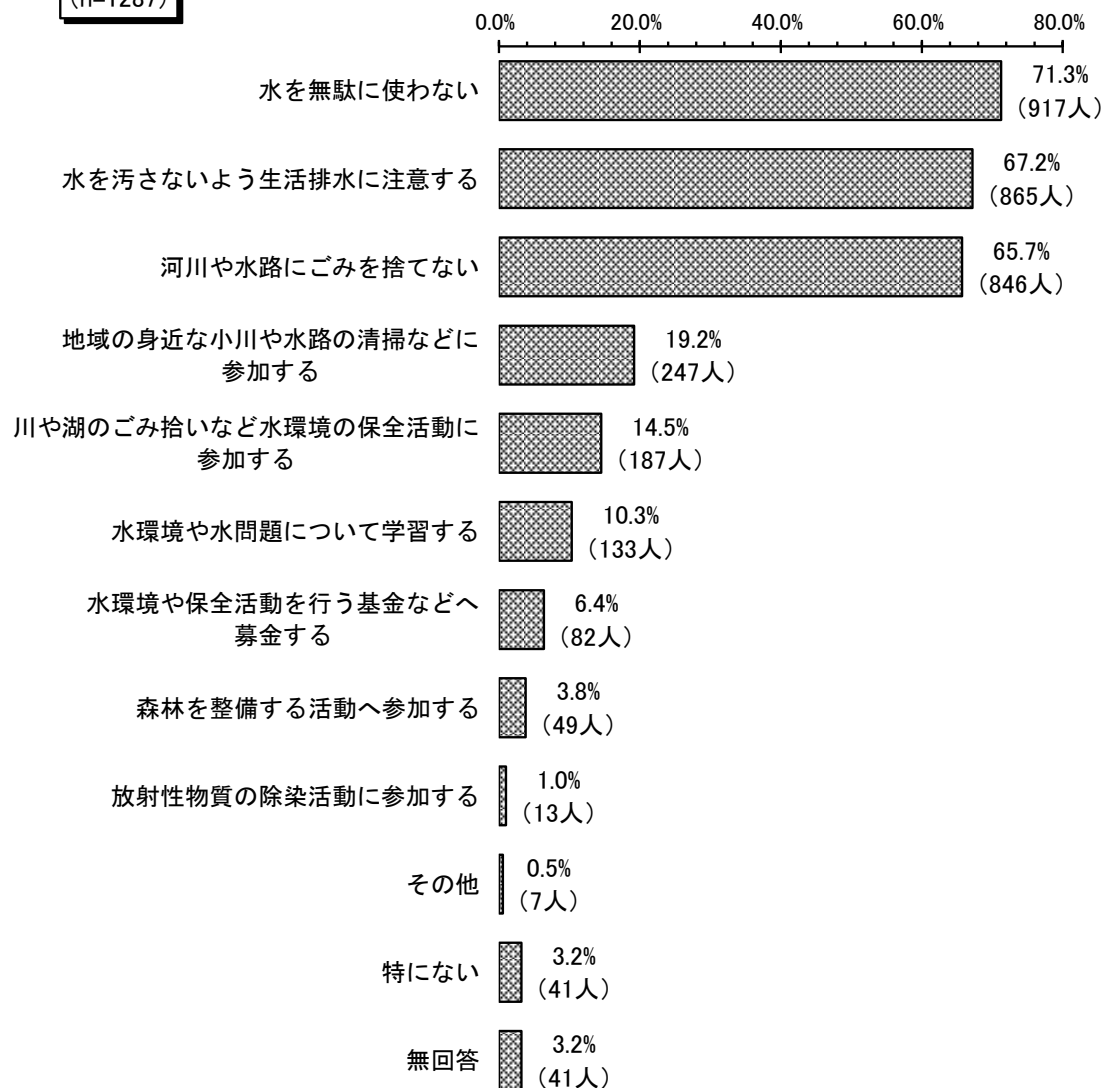
地域活動やボランティア活動への参加状況について、「これまで1度も参加したことがない」(54.7%)の割合が最も多く、過半数となっている。次いで、「河川や水路のゴミ拾いなどの美化活動」(21.6%)、「河川や水路の草刈りなどの管理活動」(19.5%)が約2割となっている。

## (6) 将来にわたって水を利用していくために取り組みたいこと

問 19 あなたは、将来にわたって水を利用していくために、自分で取り組みたいと  
思っていることがありますか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

全体  
(n=1287)

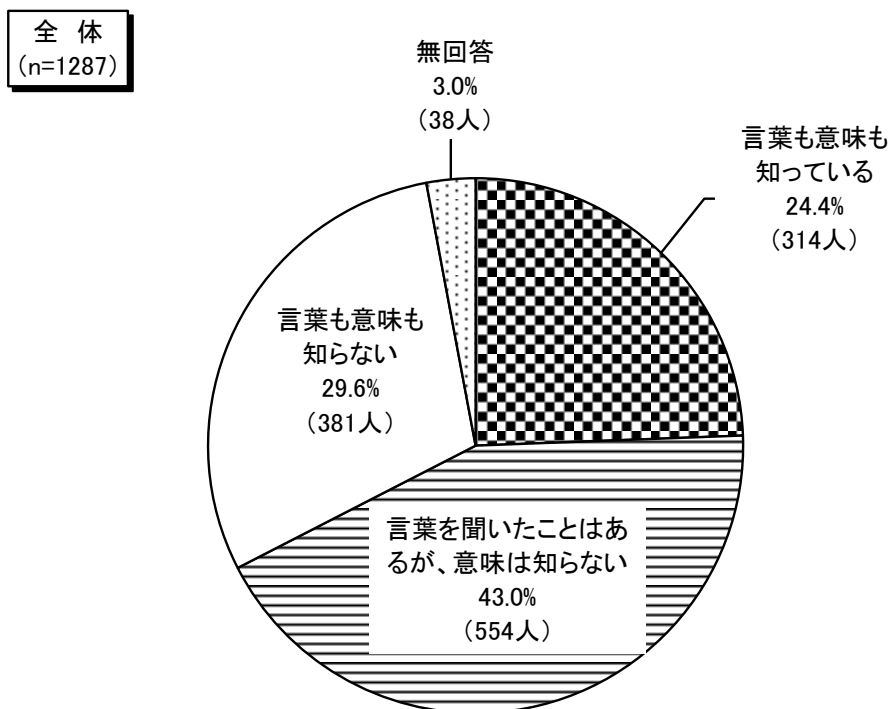


水を利用していくために取り組みたいこととして、「水を無駄に使わない」(71.3%)の割合が最も高く、約7割となっている。次いで、「水を汚さないよう生活排水に注意する」(67.2%)、「河川や水路にごみを捨てない」(65.7%)が6割台で続いている。

## 7. 生物多様性について

### (1) 「生物多様性」という言葉の認知状況

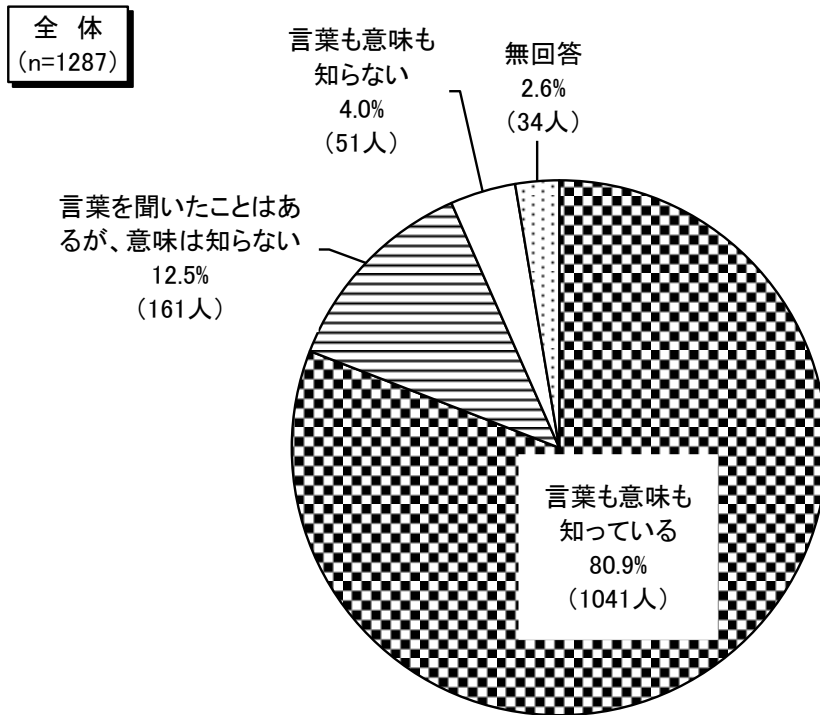
問 20 あなたは、「生物多様性」という言葉について知っていますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。



「生物多様性」という言葉の認知状況は「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(43.0%)の割合が最も多く、4割強となっている。「言葉も意味も知っている」(24.4%)の割合は2割半ば、「言葉も意味も知らない」(29.6%)の割合は約3割となっている。

## (2) 「外来生物」という言葉の認知状況

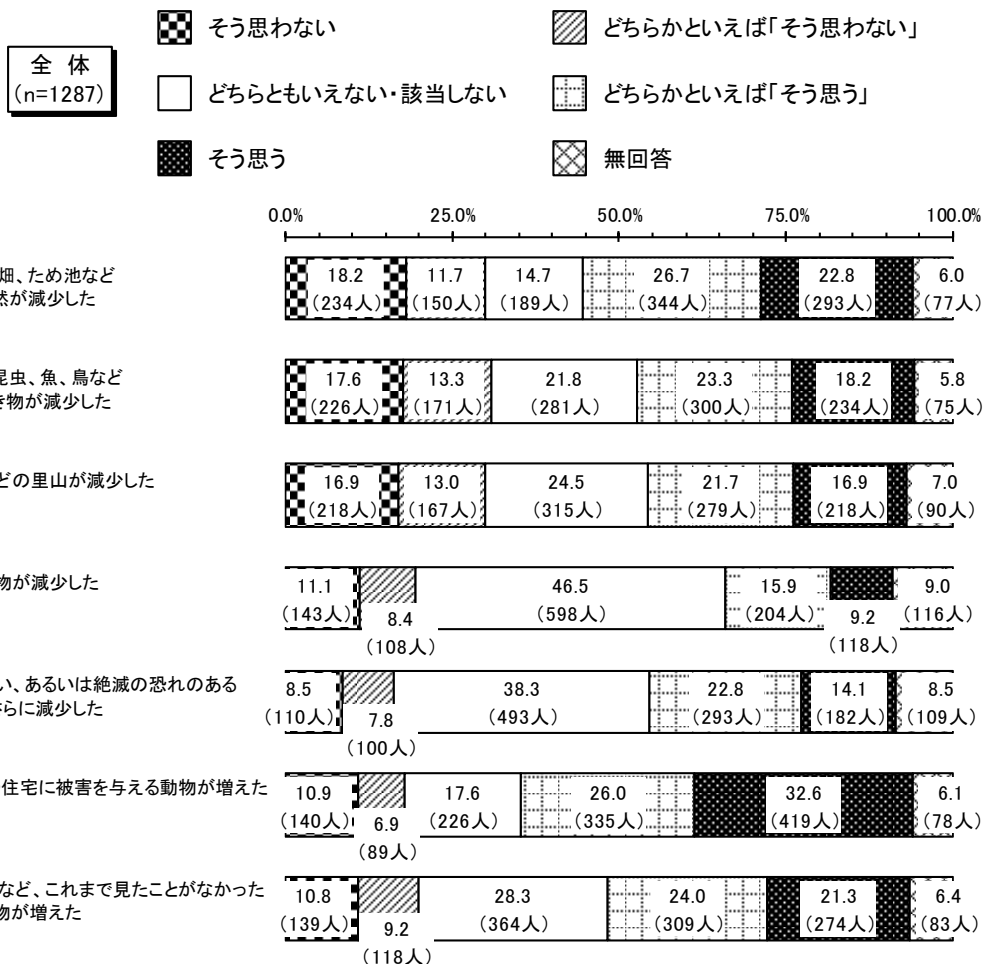
問 21 あなたは、「外来生物」という言葉について知っていますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。



「外来生物」という言葉の認知状況は「言葉も意味も知っている」(80.9%)の割合が最も多く、約8割となっている。「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(12.5%)の割合は1割強、「言葉も意味も知らない」(4.0%)の割合は1割未満となっている。

### (3) 震災前と比較した自然環境の変化

問22 震災前と比較して、あなたの周りの自然環境はどのように変化しましたか。  
次のア～キについて、選択肢1～5の中でそれぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。

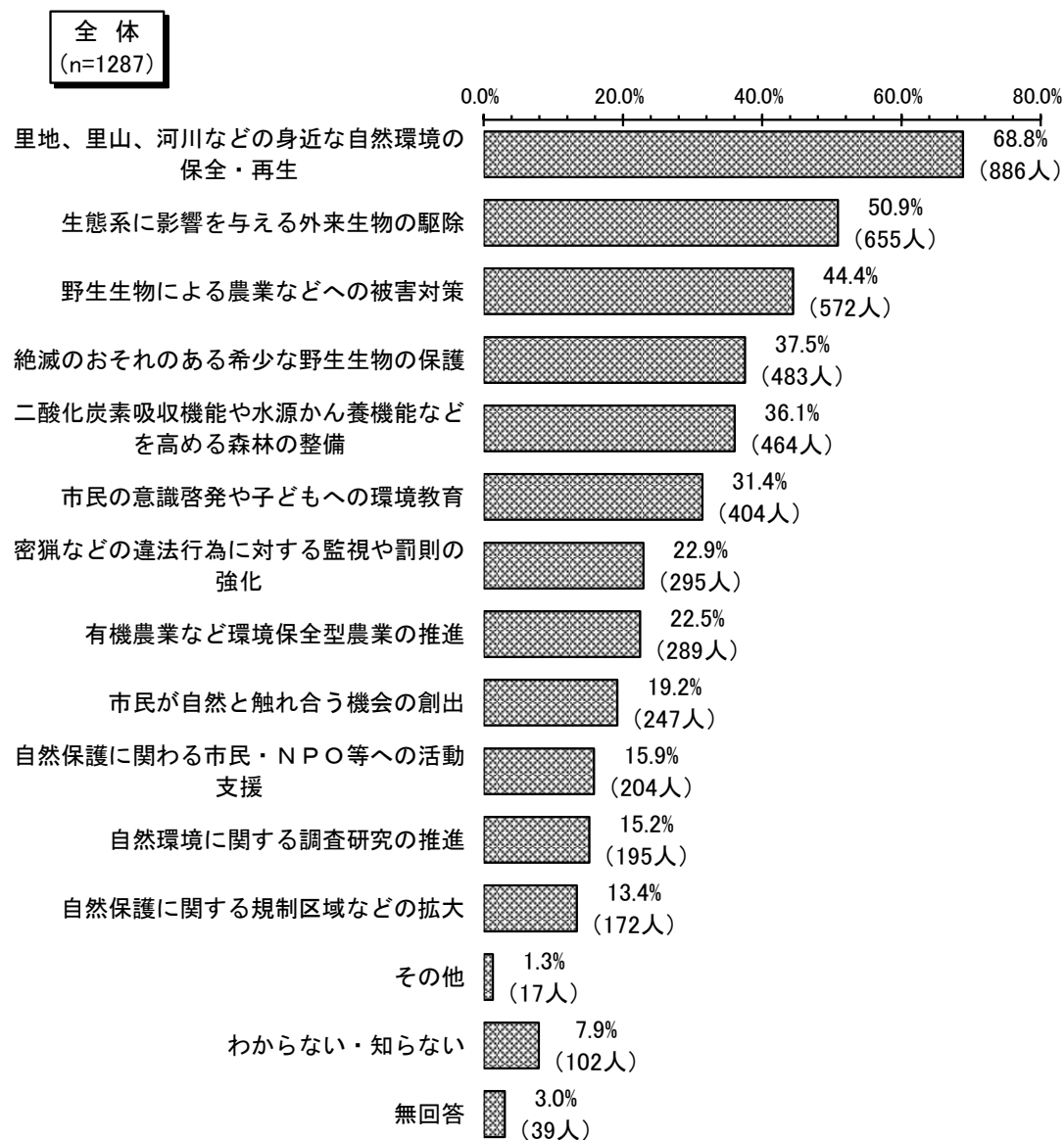


「そう思う」と「どちらかといえば「そう思う」」を合わせた『そう思う』計の割合は、〈カ 農作物や住宅に被害を与える動物が増えた〉(58.6%)が約6割で最も高くなっている。以下、〈ア 田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した〉(49.5%)、〈キ 外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた〉(45.3%)、〈イ カエルや昆虫、魚、鳥など身近な生き物が減少した〉(41.5%)が4割台で続いている。

一方、「そう思わない」と「どちらかといえば「そう思わない」」を合わせた『そう思わない』計の割合をみると、〈イ カエルや昆虫、魚、鳥など身近な生き物が減少した〉(30.8%)が最も高くなっている。以下、〈ウ 雑木林などの里山が減少した〉(29.9%)、〈ア 田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した〉(29.8%)が約3割などとなっている。

#### (4) 行政の取組として最も重要だと思うこと

問 23 生物多様性の保全や、それによる生態系からの豊かな恵み（生態系サービス）を得るための行政の取組として最も重要だと思うことはどれですか。  
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



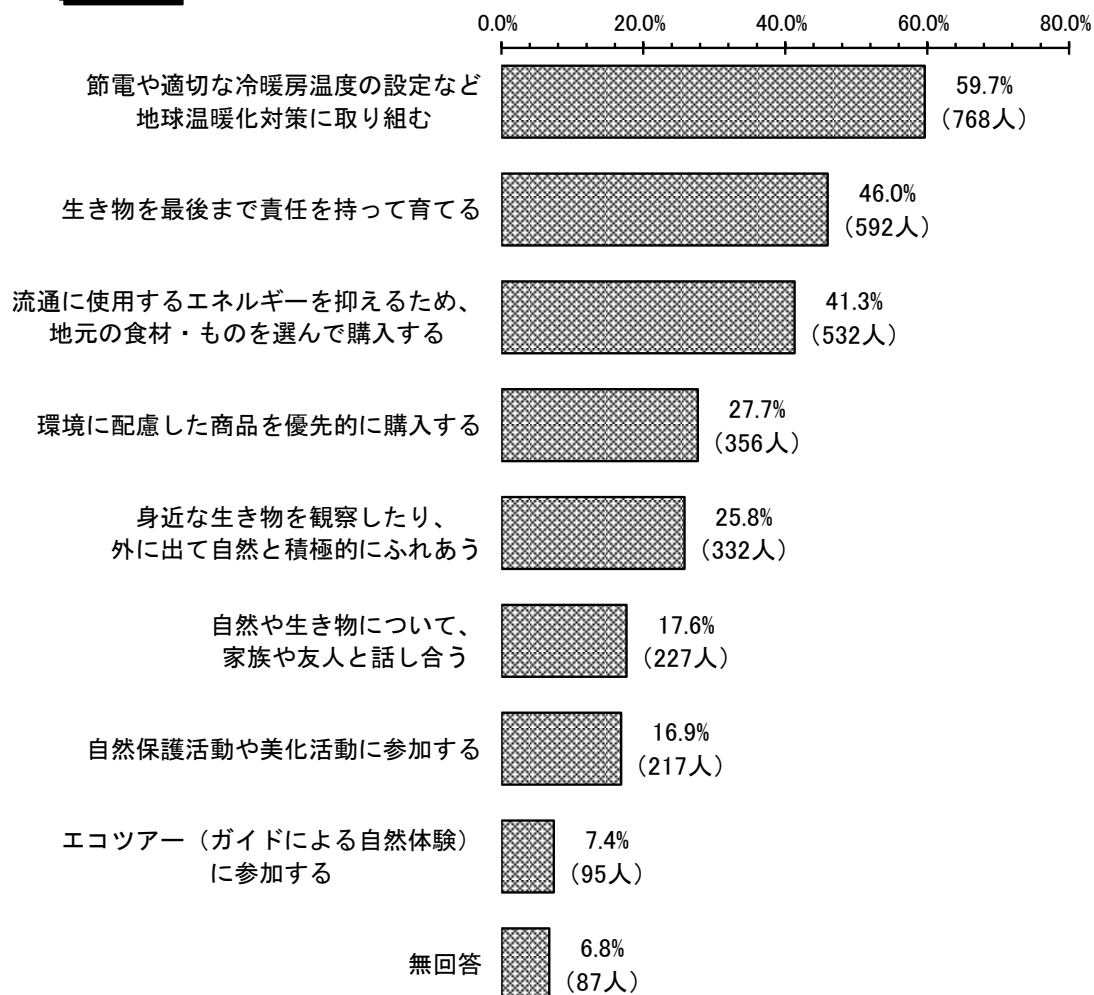
行政の取組として最も重要だと思うことについて、「里地、里山、河川などの身近な自然環境の保全・再生」(68.8%)の割合が最も多く、約7割となっている。次いで、「生態系に影響を与える外来生物の駆除」(50.9%)が約5割、「野生生物による農業などへの被害対策」(44.4%)が4割半ば、「絶滅のおそれのある希少な野生生物の保護」(37.5%)、「二酸化炭素吸収機能や水源かん養機能などを高める森林の整備」(36.1%)、「市民の意識啓発や子どもへの環境教育」(31.4%)が3割台で続いている。



## (5) 生物多様性に配慮したライフスタイルとしての取り組み

問 24 あなたは、生物多様性に配慮したライフスタイルとして、既に取り組んでいる、又は取り組んでみたいと思うことはありますか。  
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

全体  
(n=1287)

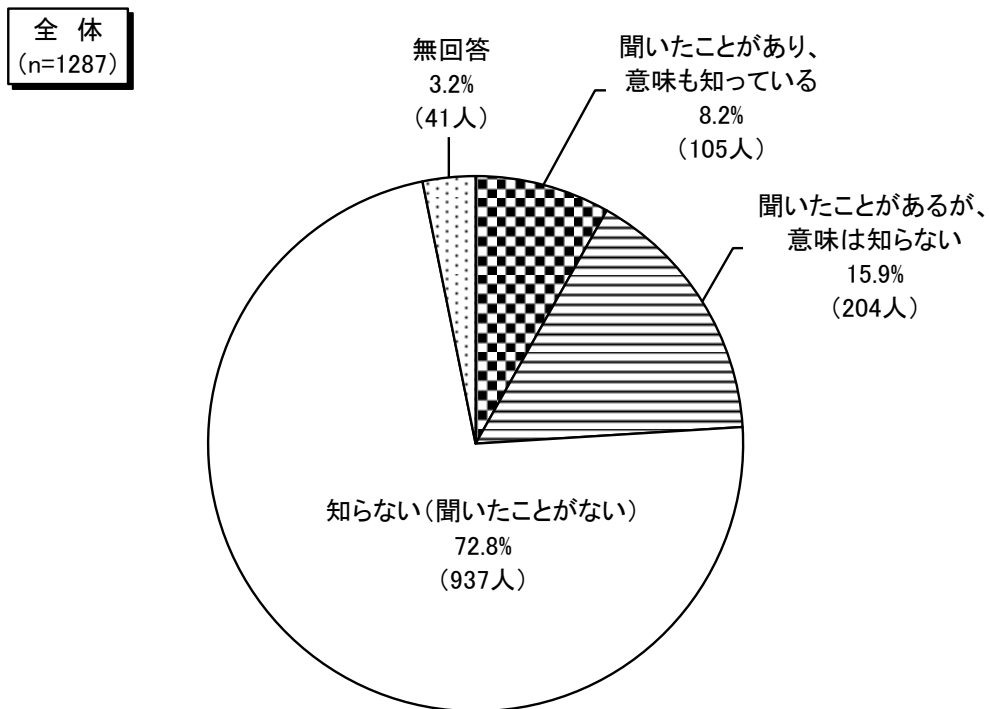


既に取り組んでいる、又は取り組んでみたいと思うことについて、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む」(59.7%)の割合が最も多く、約6割となっている。次いで、「生き物を最後まで責任を持って育てる」(46.0%)、「流通に使用するエネルギーを抑えるため、地元の食材・ものを選んで購入する」(41.3%)が4割台となっている。

## 8. エシカル消費（倫理的消費）について

### (1) 「エシカル消費」という言葉の認知状況

問 25 あなたは、「エシカル消費」という言葉を知っていますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。



「エシカル消費」という言葉の認知状況は「知らない（聞いたことがない）」（72.8%）の割合が最も多く、7割強となっている。「聞いたことがあり、意味も知っている」（8.2%）の割合は1割未満、「聞いたことがあるが、意味は知らない」（15.9%）の割合は1割半ばとなっている。

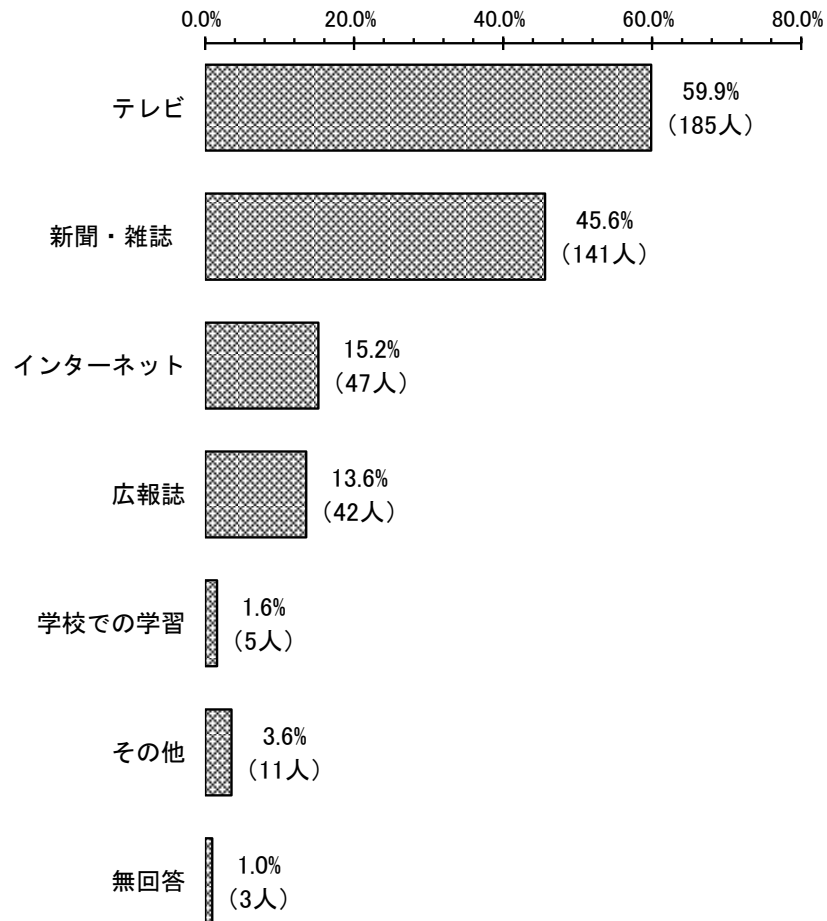
## (2) 「エシカル消費」という言葉の情報元

(問25で「1」又は「2」と回答した方にお尋ねします。)

問26 「エシカル消費」という言葉を何で知りましたか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

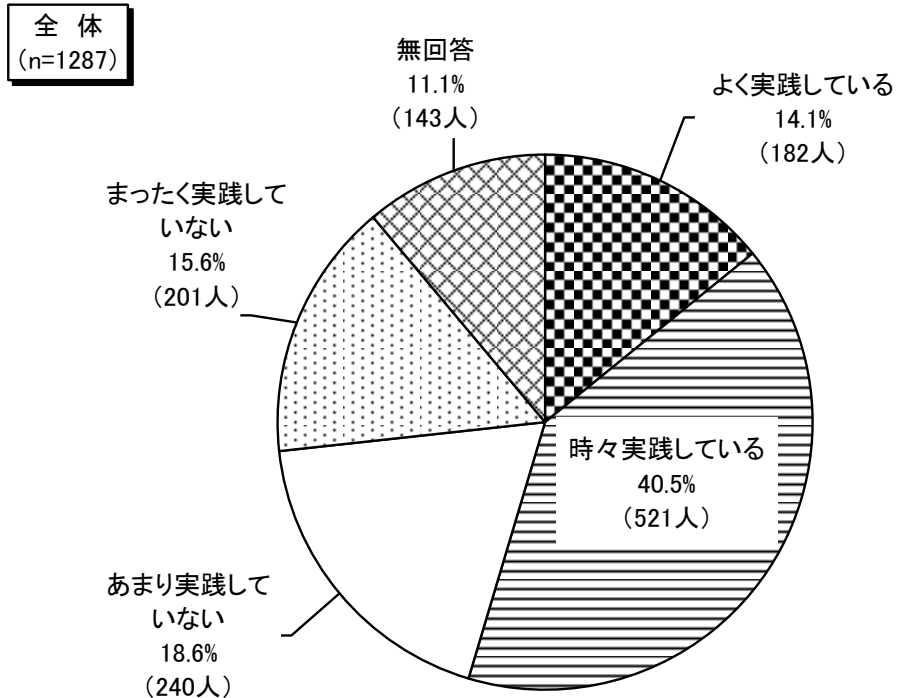
全体  
(n=309)



言葉の情報元は、「テレビ」(59.9%)が最も多く、約6割を占めている。以下、「新聞・雑誌」(45.6%)が4割半ば、「インターネット」(15.2%)が約4割、「広報誌」(13.6%)が1割台などとなっている。

### (3) エシカル消費につながる行動の実践状況

問 27 エシカル消費につながる行動について、どの程度実践していますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。



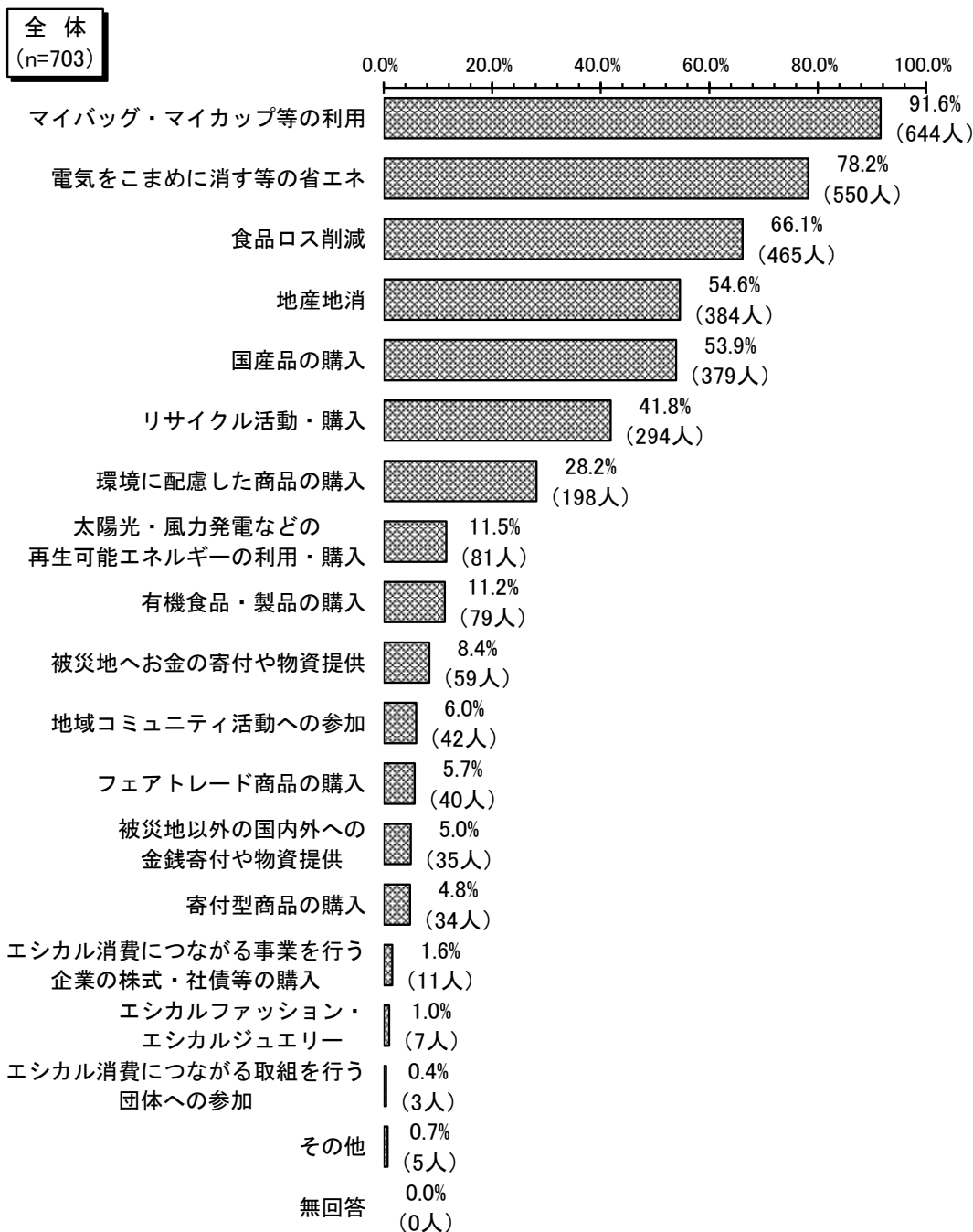
エシカル消費につながる行動の実践状況については、「時々実践している」(40.5%)が最も多く、約4割を占めている。「よく実践している」(14.1%)が1割強、「あまり実践していない」(18.6%)が2割弱、「まったく実践していない」(15.6%)が1割半ばとなっている。

#### (4) エシカル消費につながる行動の実践内容

(問27「1」又は「2」と回答した方にお尋ねします。)

問28 具体的にどのようなことを実践していますか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

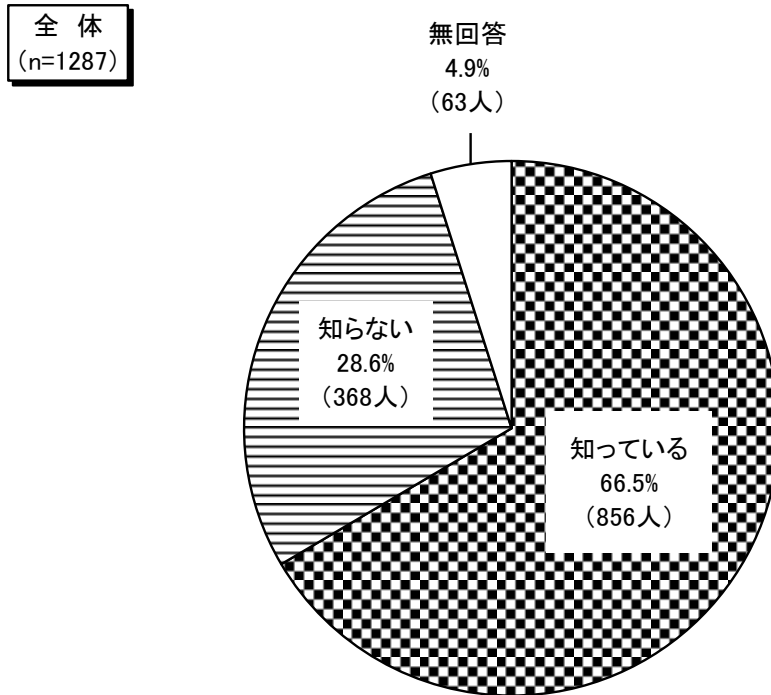


エシカル消費につながる行動の実践内容について、「マイバッグ・マイカップ等の利用」(91.6%)の割合が最も多く、約9割となっている。次いで、「電気をこまめに消す等の省エネ」(78.2%)が8割弱、「食品ロス削減」(66.1%)が6割半ば、「地産地消」(54.6%)、「国産品の購入」(53.9%)が5割台、「リサイクル活動・購入」(41.8%)が約4割で続いている。

## 9. 自転車の安全利用について

### (1) 自転車損害賠償保険の加入義務化の認知状況

問 29 あなたは、令和4年4月1日から自転車条例により自転車損害賠償責任保険等※  
(以下「自転車保険」といいます。)への加入が義務化されたことを知っていますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。



※【参考】「自転車損害賠償責任保険等」とは

自転車の運行によって他人の生命又は身体が害された場合における損害を填補することができる保険又は共済のことをいいます。

自転車損害賠償保険の加入義務化の認知状況は、「知っている」(66.5%)が最も多く、7割弱となっている。

一方、「知らない」(28.6%)の割合は、約3割となっている。

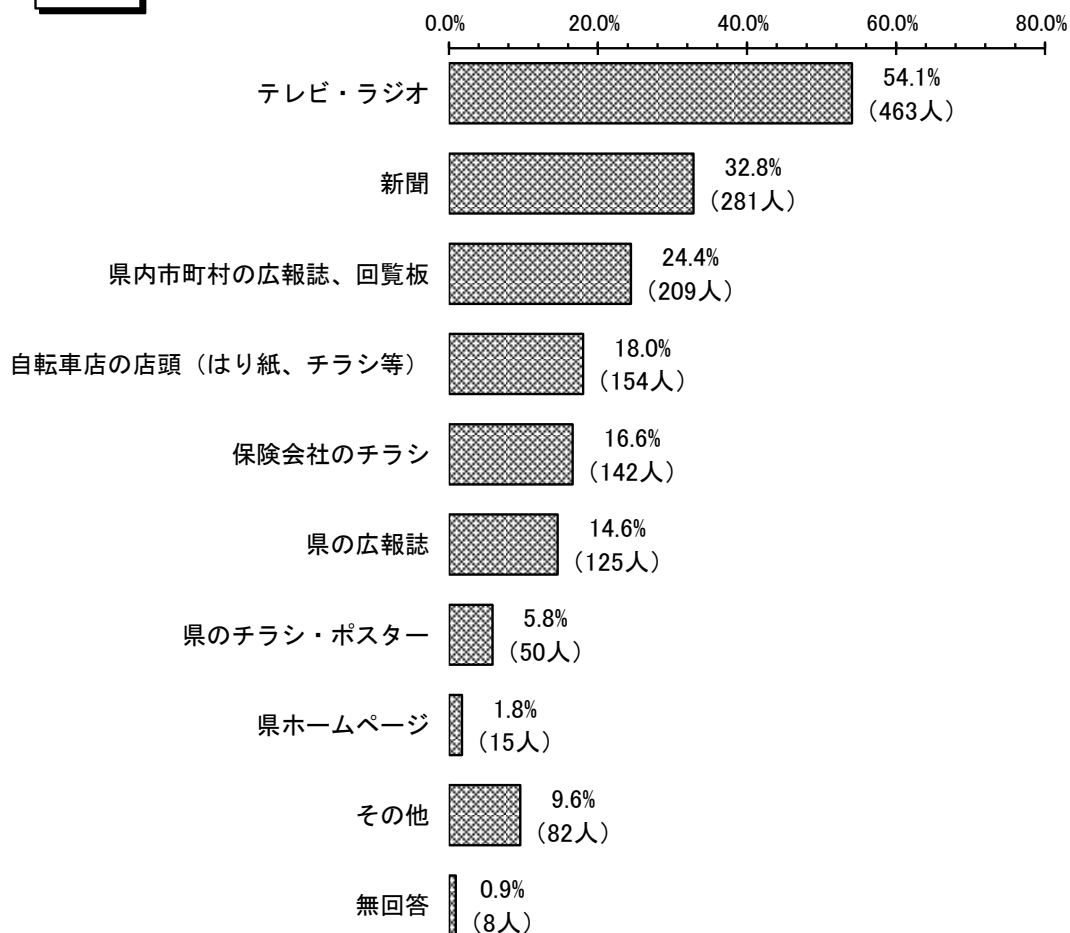
## (2) 自転車損害賠償保険の加入義務化の情報元

(問29で「1」と回答した方にお尋ねします。)

問30 あなたは、自転車保険への加入が義務であることを何で知りましたか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。

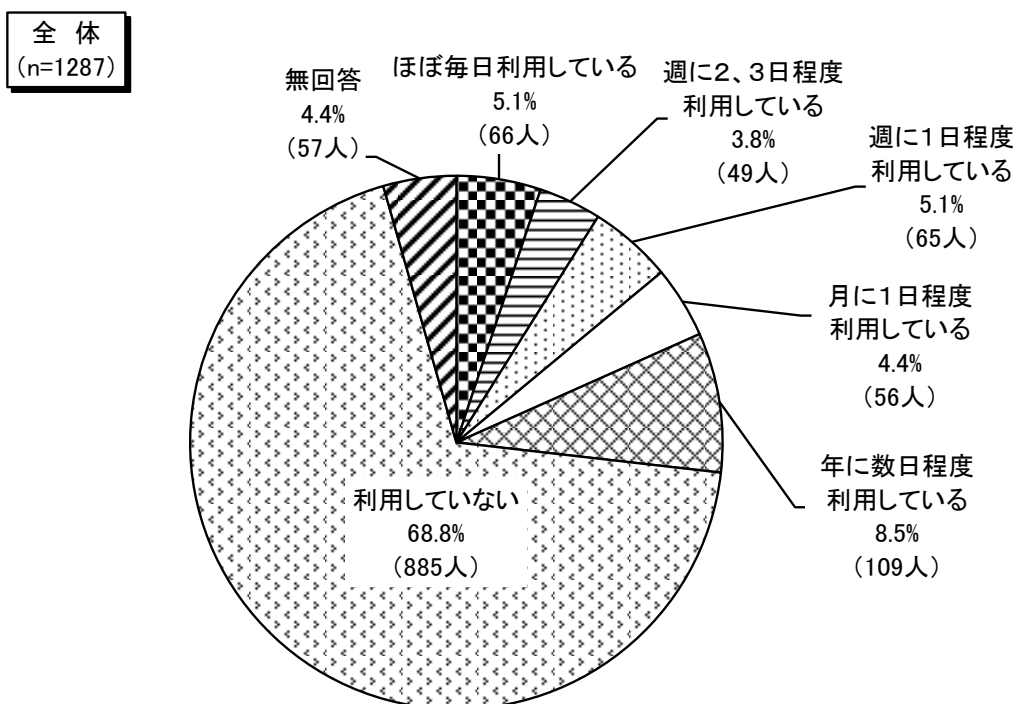
全体  
(n=856)



自転車保険の加入義務化の情報元は、「テレビ・ラジオ」(54.1%)が最も多く、過半数を占めている。以下、「新聞」(32.8%)が3割強、「県内市町村の広報誌、回覧板」(24.4%)が2割半ば、「自転車店の店頭 (はり紙、チラシ等)」(18.0%)、「保険会社のチラシ」(16.6%)、「県の広報誌」(14.6%)が1割台などとなっている。

### (3) 自転車の利用頻度

問31 あなたは、ふだんの生活で自転車をどのくらい利用していますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。



自転車の利用頻度は「年に数日程度利用している」(8.5%)の割合が最も多く、1割弱となっている。月に1日以上利用している人は2割未満となっている。

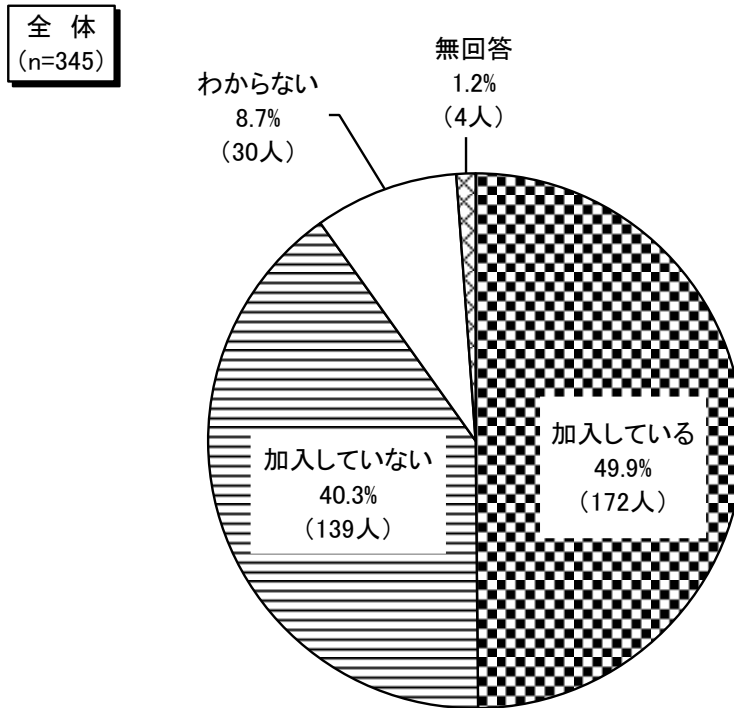
一方、「利用していない」(68.8%)の割合は、約7割となっている。



#### (4) 自転車損害賠償保険の加入状況

(問31で「1」～「5」と回答した方にお尋ねします。)

問32 あなたは、自転車保険に加入していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。



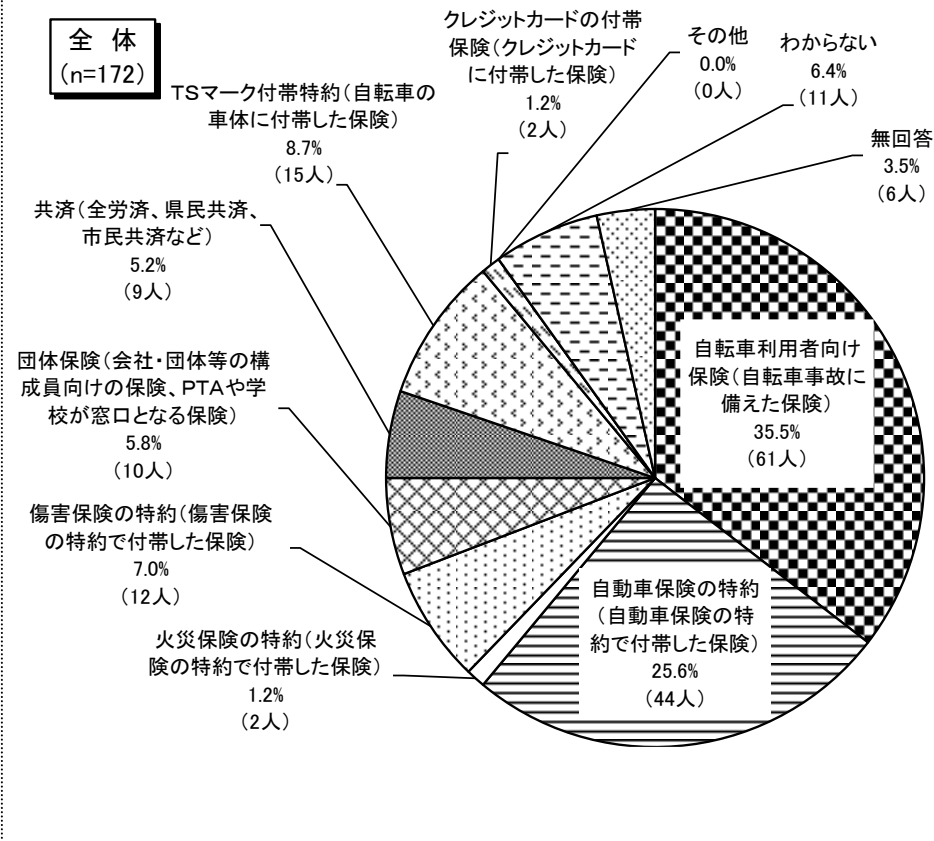
自転車損害賠償保険の加入状況は「加入している」(49.9%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「加入していない」(40.3%)が約4割で拮抗している。

## (5) 加入している自転車損害賠償保険の種類

(問 32 で「1 加入している」と回答した方にお尋ねします。)

問 33 加入している自転車損害賠償保険の種類を教えてください。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



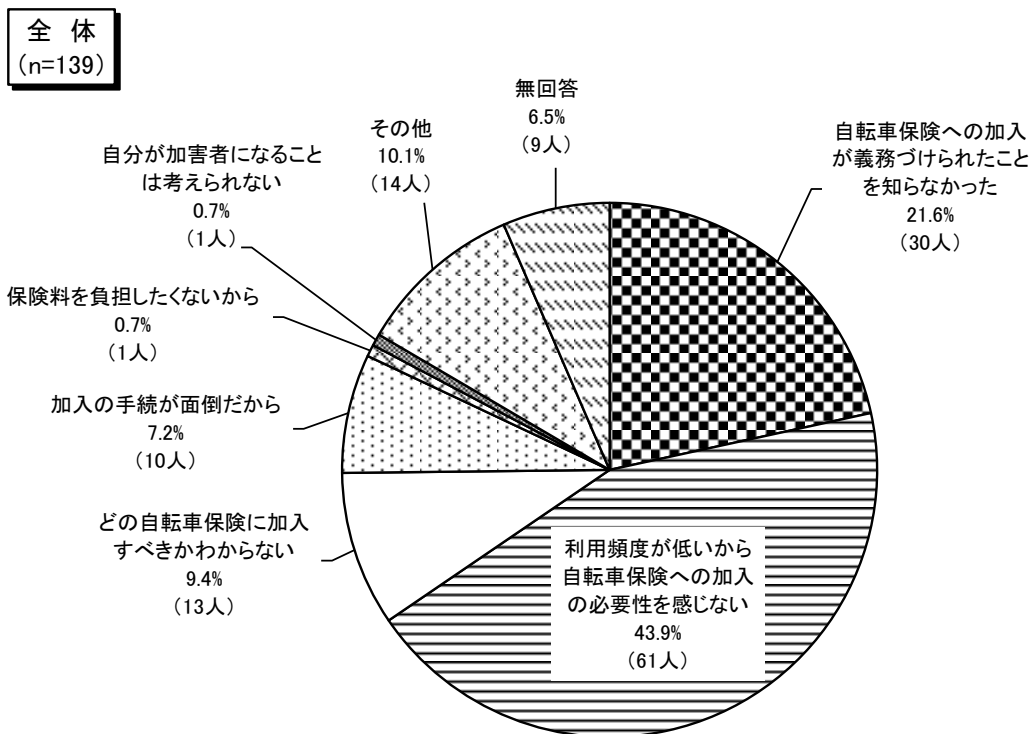
加入している自転車損害賠償保険の種類は「自転車利用者向け保険（自転車事故に備えた保険）」(35.5%)が最も多く、3割半ばとなっている。次いで、「自動車保険の特約（自動車保険の特約で付帯した保険）」(25.6%)が2割半ば、「TSマーク付帯特約（自転車の車体に付帯した保険）」(8.7%)、「傷害保険の特約（傷害保険の特約で付帯した保険）」(7.0%)が1割弱で続いている。

## (6) 自転車損害賠償保険に加入していない理由

(問32で「2 加入していない」と回答した方にお尋ねします。)

問34 自転車損害賠償保険に加入していない理由を教えてください。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

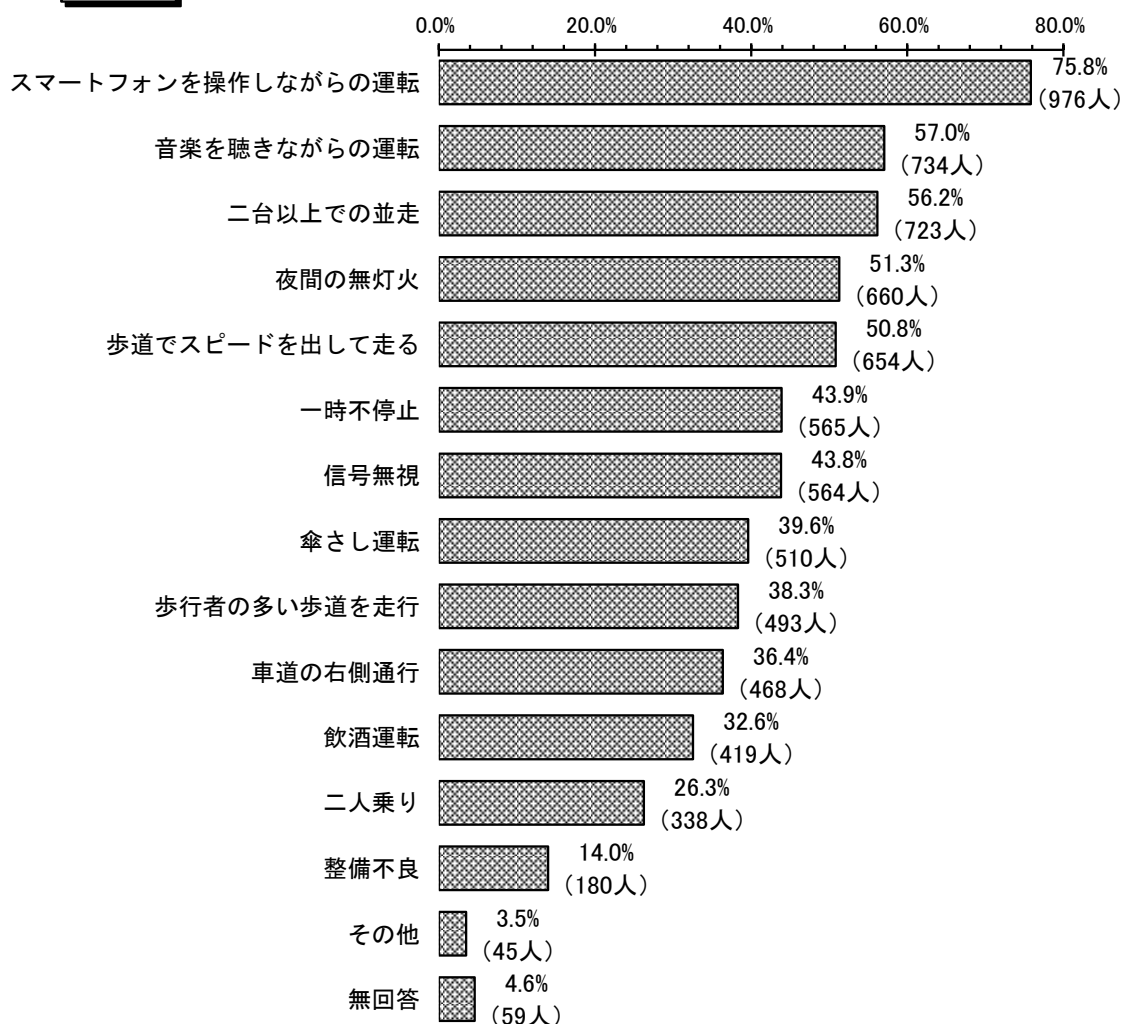


自転車損害賠償保険に加入していない理由は「利用頻度が低いから自転車保険への加入の必要性を感じない」(43.9%)が最も多く、4割強となっている。次いで、「自転車保険への加入が義務づけられたことを知らなかった」(21.6%)が約2割、「どの自転車保険に加入すべきかわからない」(9.4%)が約1割で続いている。

## (7) 危険と感じる自転車運転について

問 35 あなたは、他人のどのような自転車運転で危険を感じたり、「やめてほしい」と感じたりしますか。あてはまるものにもいくつか○をつけてください。

全体  
(n=1287)



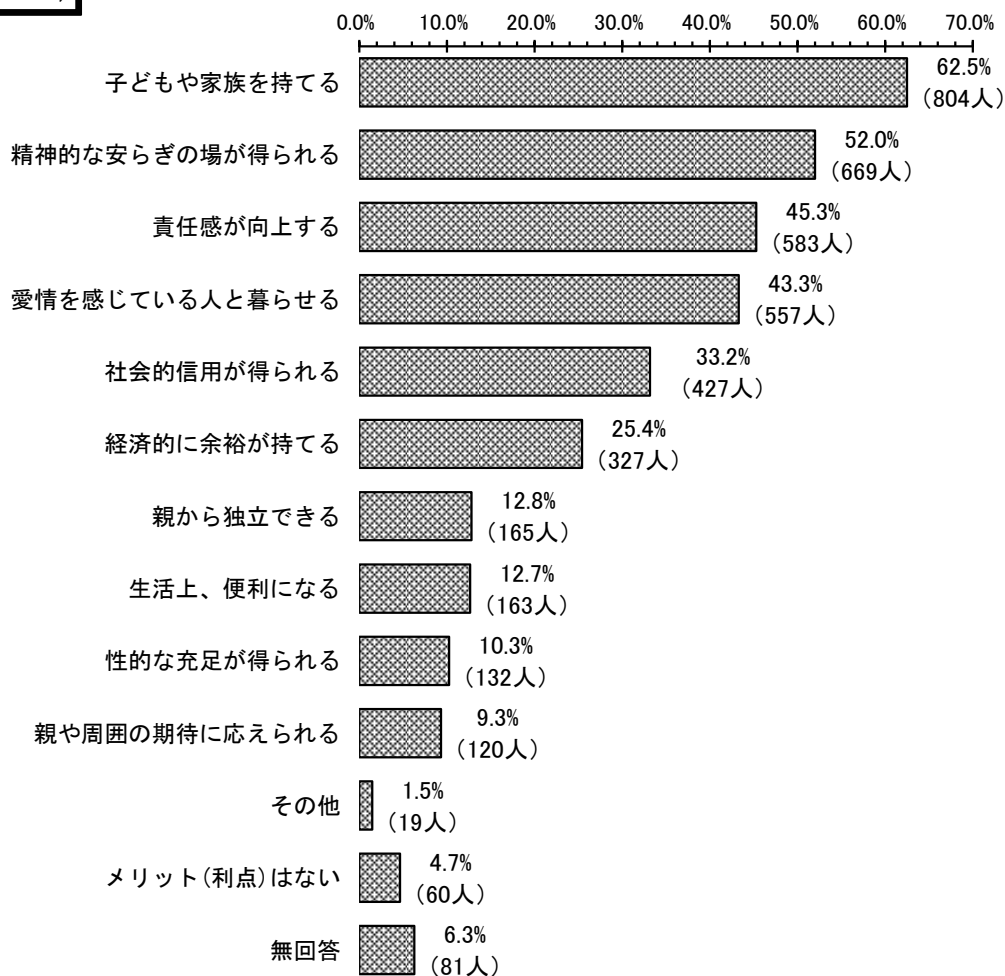
危険、「やめてほしい」と感じる自転車運転として、「スマートフォンを操作しながらの運転」(75.8%)が最も多く、7割以上を占めている。以下、「音楽を聴きながらの運転」(57.0%)、「二台以上での並走」(56.2%)、「夜間の無灯火」(51.3%)、「歩道でスピードを出して走る」(50.8%)が5割台、「一時不停止」(43.9%)、「信号無視」(43.8%)が4割台などとなっている。

## 10. 少子化対策について

### (1) 結婚のメリット(利点)

問 37 あなたは、結婚することについてどのようなメリット(利点)があると思いますか。あてはまるものにもいくつか○をつけてください。

全体  
(n=1287)

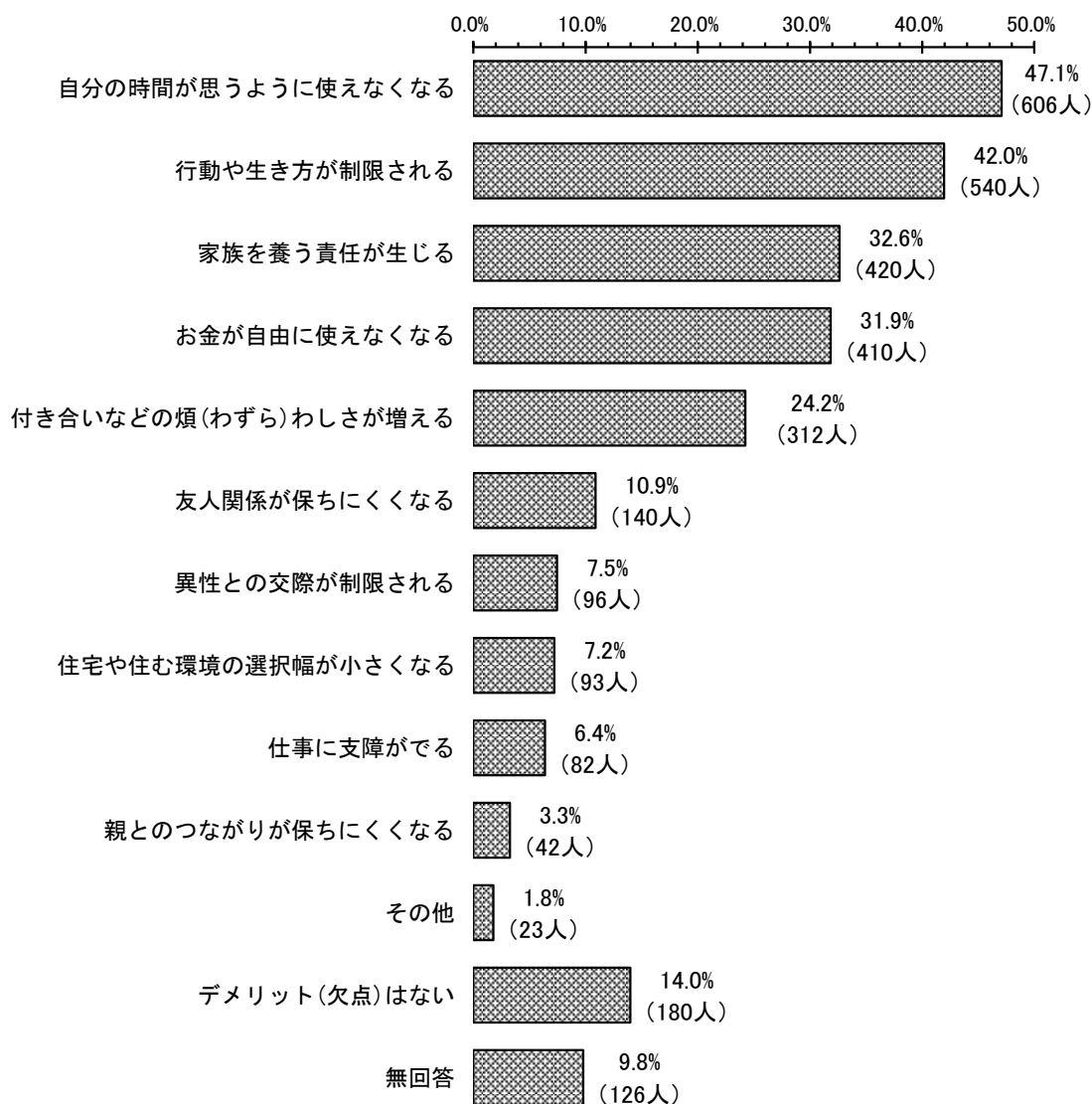


結婚のメリット(利点)として、「子どもや家族を持てる」(62.5%)が最も多く、6割強を占めている。以下、「精神的な安らぎの場が得られる」(52.0%)が約5割、「責任感が向上する」(45.3%)、「愛情を感じている人と暮らせる」(43.3%)が4割台、「社会的信用が得られる」(33.2%)が3割強などとなっている。

## (2) 結婚のデメリット(欠点)

問 38 あなたは、結婚することについてどのようなデメリット(欠点)があると思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

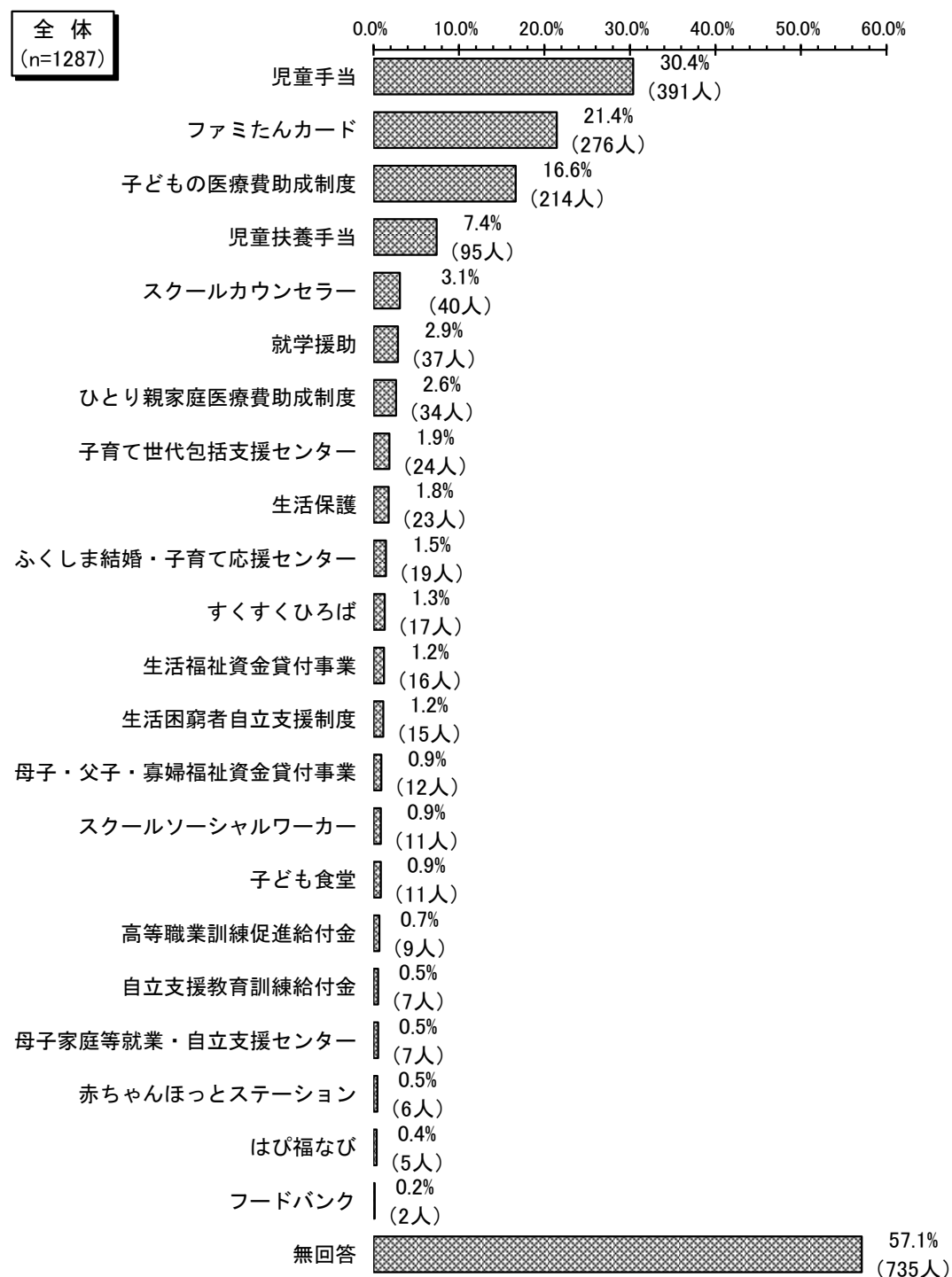
全体  
(n=1287)



結婚のデメリット(欠点)として、「自分の時間が思うように使えなくなる」(47.1%)が最も多く、5割弱を占めている。以下、「行動や生き方が制限される」(42.0%)が約4割、「家族を養う責任が生じる」(32.6%)、「お金が自由に使えなくなる」(31.9%)が3割台、「付き合いなどの煩(わずら)わしさが増える」(24.2%)が2割台などとなっている。

### (3) 利用した施策

問 39 あなたは次の施策を利用した(又は支援を受けた)ことがありますか。  
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

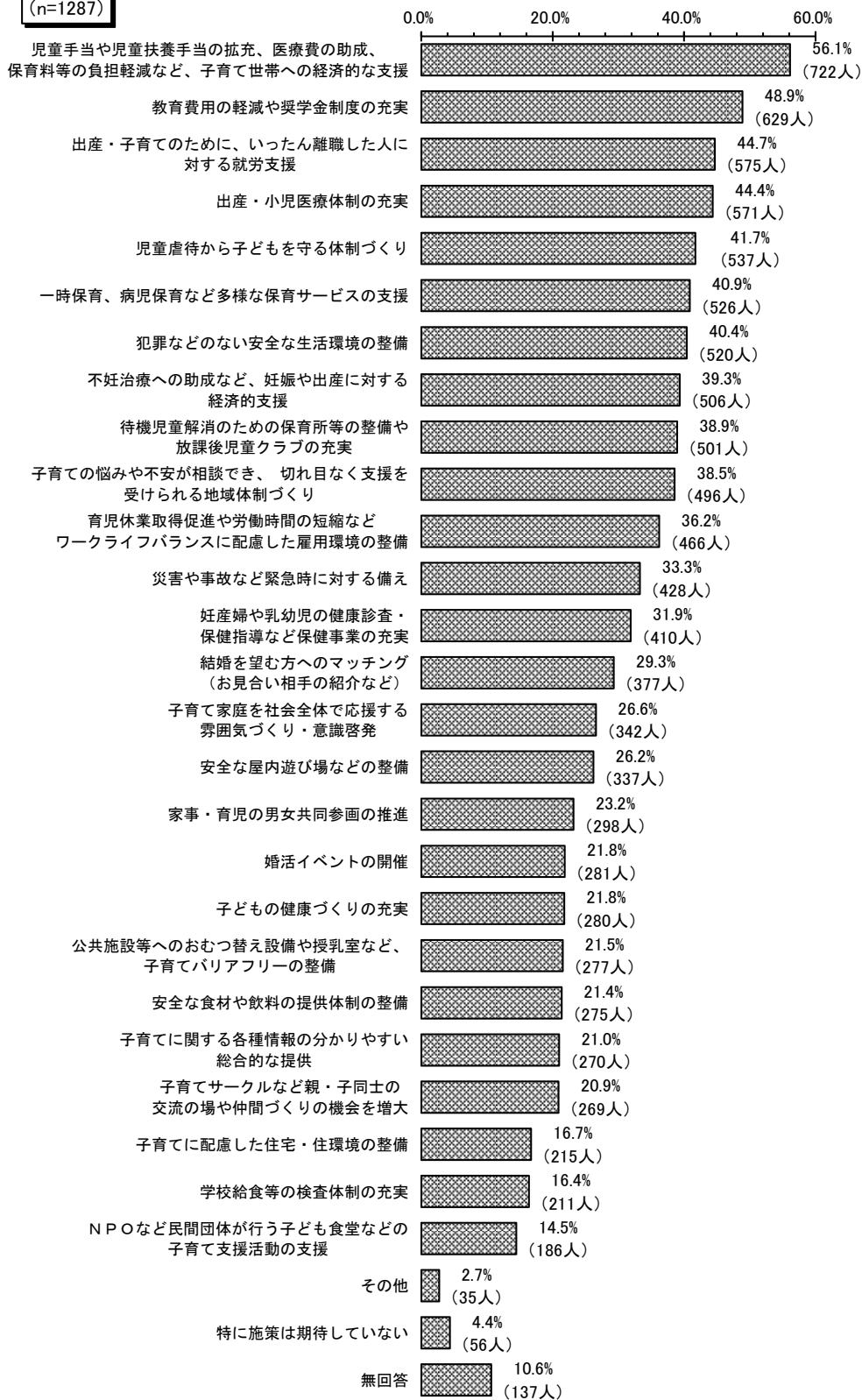


利用した施策は、「児童手当」(30.4%)が最も多く、約3割を占めている。次いで、「ファミたんカード」(21.4%)が約2割、「子どもの医療費助成制度」(16.6%)が1割台、「児童扶養手当」(7.4%)が1割弱などとなっている。以下、1割未満となっている。

#### (4) 国・県・市町村に期待する施策

問 40 子育て環境の整備や少子化対策について、国・県・市町村にどのような施策を期待しますか。あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。

全体  
(n=1287)





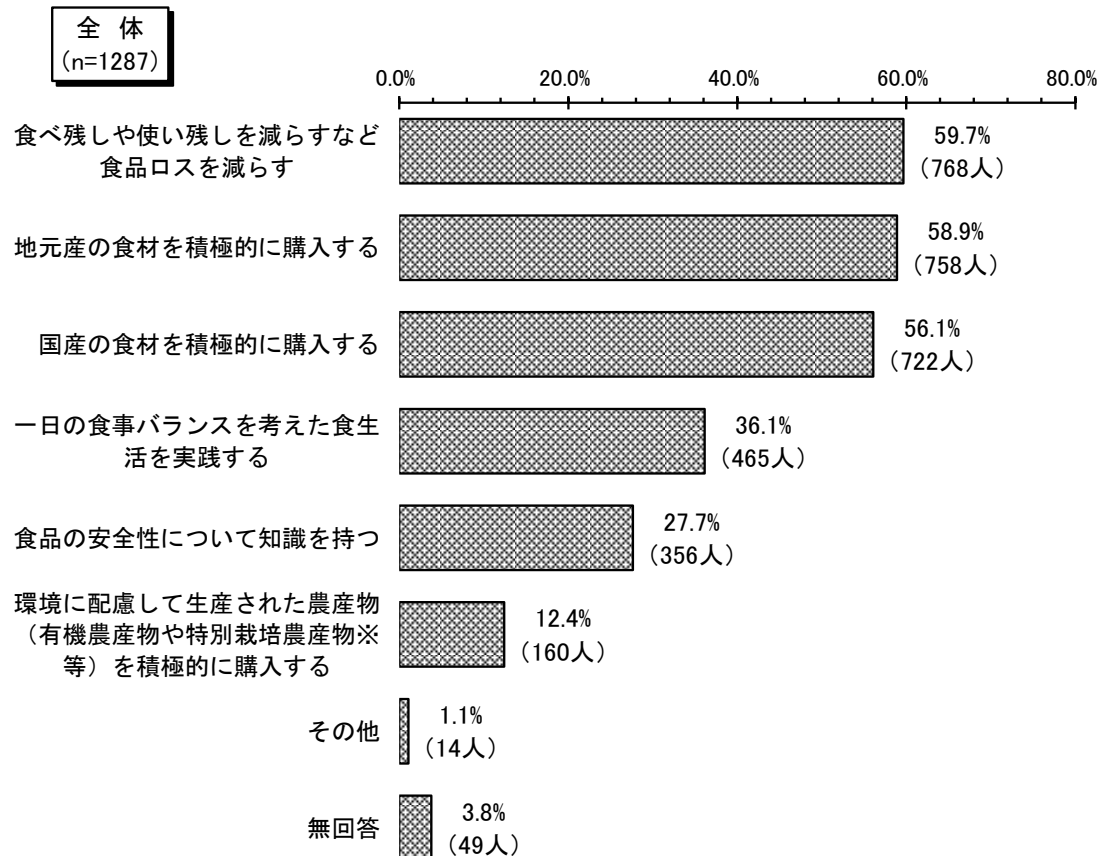
国・県・市町村に期待する施策は、「児童手当や児童扶養手当の拡充、医療費の助成、保育料等の負担軽減など、子育て世帯への経済的な支援」(56.1%)が最も多く、過半数を占めている。以下、「教育費用の軽減や奨学金制度の充実」(48.9%)、「出産・子育てのために、いったん離職した人に対する就労支援」(44.7%)、「出産・小児医療体制の充実」(44.4%)、「児童虐待から子どもを守る体制づくり」(41.7%)、「一時保育、病児保育など多様な保育サービスの支援」(40.9%)、「犯罪などのない安全な生活環境の整備」(40.4%)が4割台などとなっている。

## 1.1. 農林水産業について

### (1) 農林水産物の購入や食生活で実践していること

問 41 ふだん、あなたが農林水産物を購入する際や食生活において、以下の行動のうち実践している又は実践したいと考えていることはありますか。

あてはまるものに3つまで○をつけて下さい。



農林水産物の購入や食生活で実践していることは、「食べ残しや使い残しを減らすなど食品ロスを減らす」(59.7%)が最も多く、約6割となっている。以下、「地元産の食材を積極的に購入する」(58.9%)と「国産の食材を積極的に購入する」(56.1%)が過半数、「一日の食事バランスを考えた食生活を実践する」(36.1%)が4割弱などとなっている。

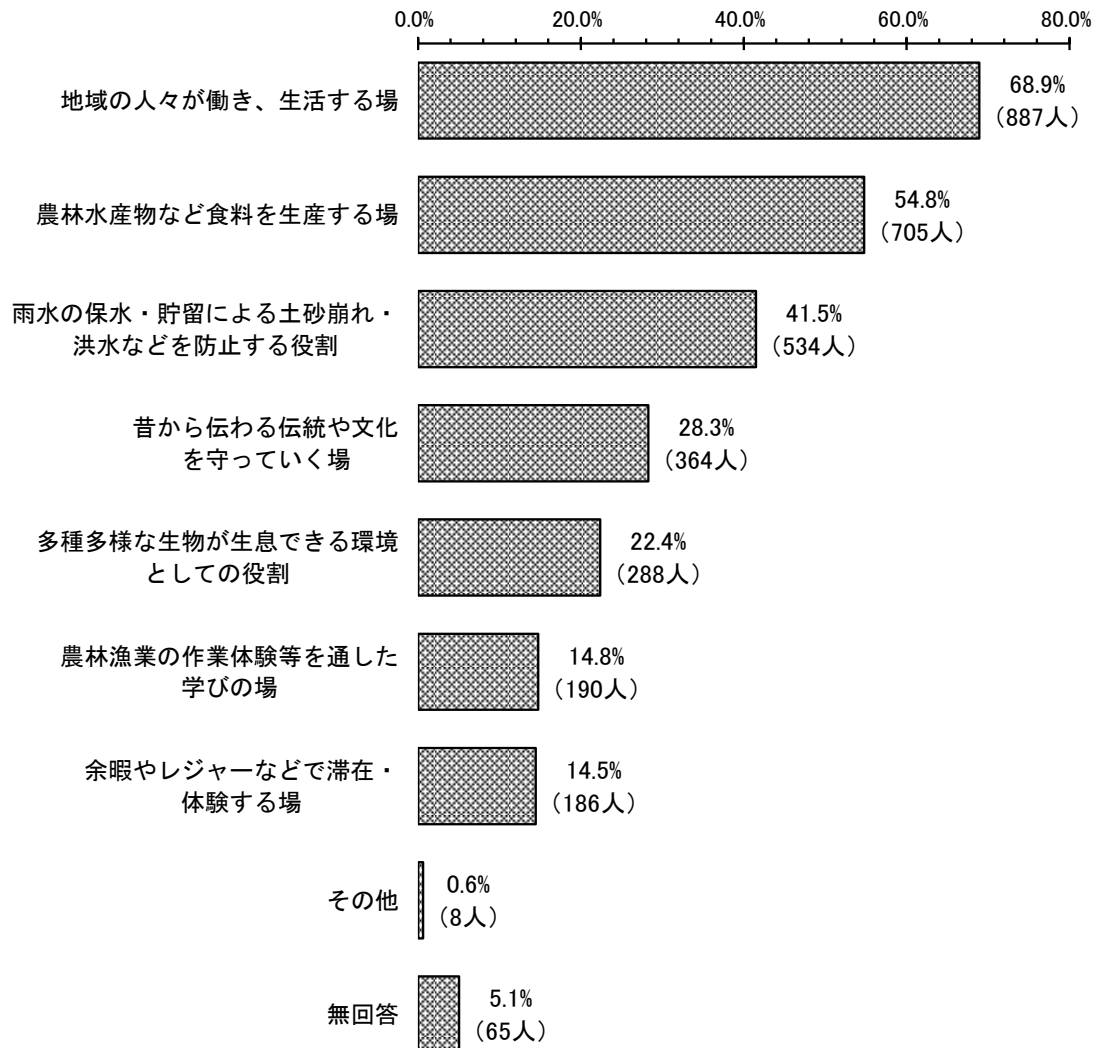
#### ※【参考】有機農産物・特別栽培農産物とは

どちらも農業による環境への負担をできる限り低減して栽培された農産物のこと。有機農産物は、化学的に合成された農薬や肥料を使用しないこと等により栽培されたもの、特別栽培農産物は、化学的に合成された農薬や肥料の使用量をこれまでより半分以下に減らして栽培されたもののこと。

## (2) 農山漁村の役割として期待すること

問 42 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。  
あてはまるものに3つまで○をつけて下さい。

全体  
(n=1287)



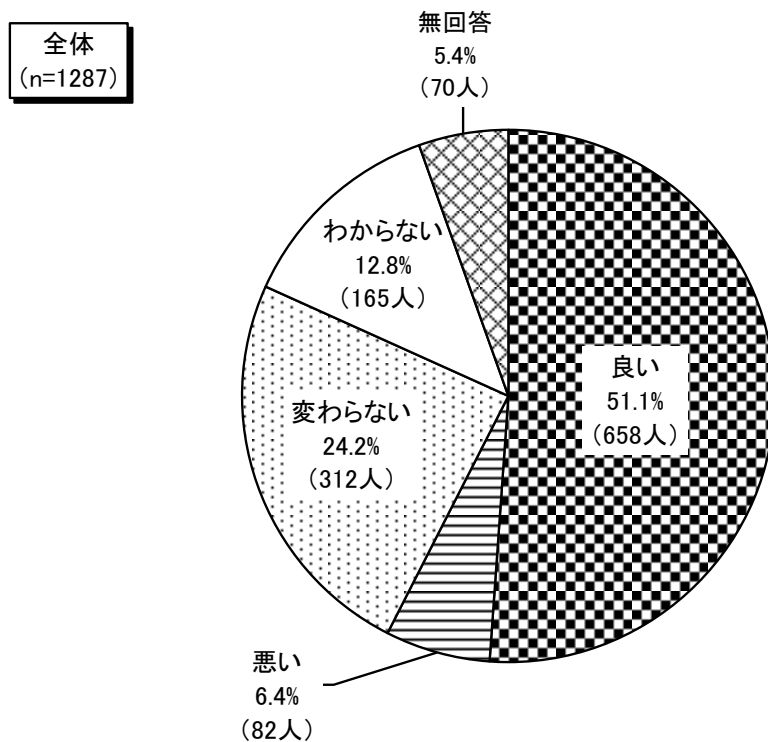
農山漁村の役割として期待することは、「地域の人々が働き、生活する場」(68.9%)が最も多く、約7割を占めている。以下、「農林水産物など食料を生産する場」(54.8%)が過半数、「雨水の保水・貯留による土砂崩れ・洪水などを防止する役割」(41.5%)が約4割、「昔から伝わる伝統や文化を守っていく場」(28.3%)が約3割などとなっている。

## 1 2. 地域社会の安全・安心（治安）について

### （1）居住地域の治安状況

問 43 現在あなたが住んでいる地域（仮設住宅・借り上げ住宅も含む）の治安は良いと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



現在の居住地域の治安状況が「良い」（51.1％）と思う人は約半数を占めている。一方、治安状況が「悪い」（6.4％）と思う人は1割未満にとどまっている。

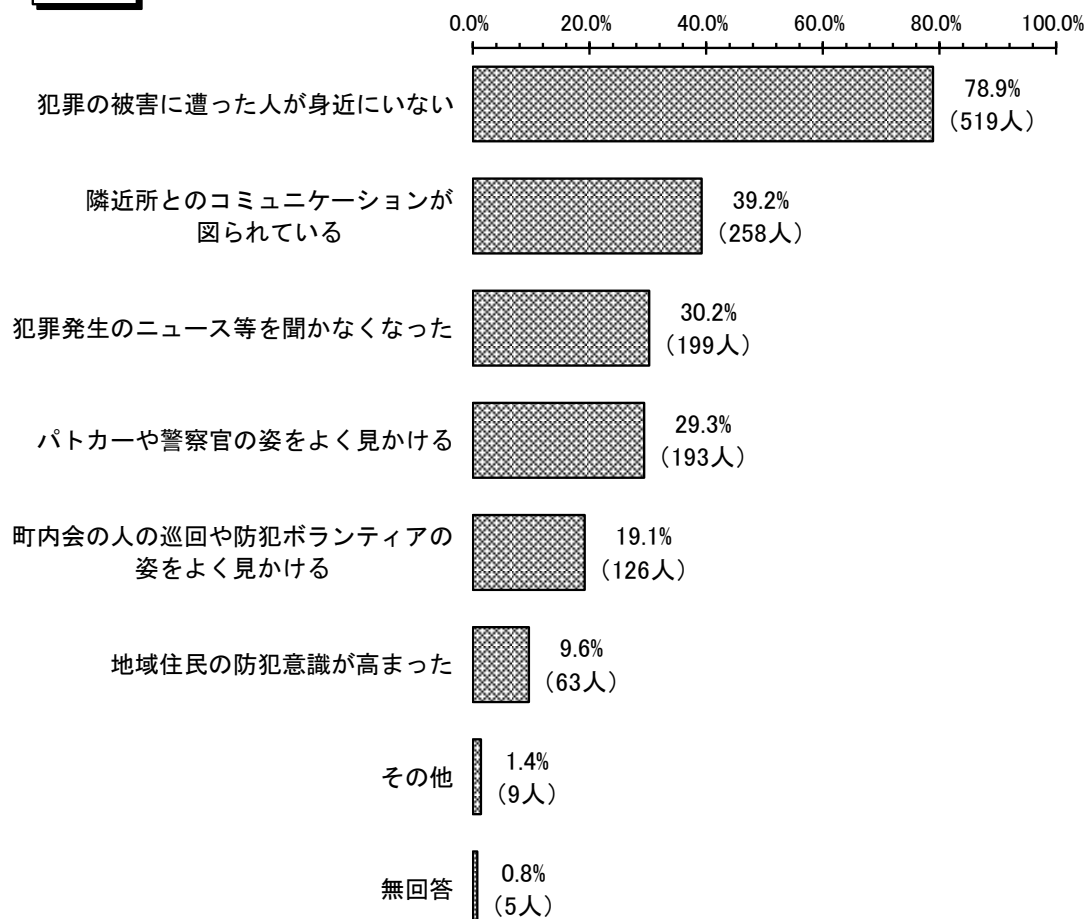
## (2) 治安状況が良いと思う理由

(問43で、「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

問44-1 問43で、良いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体  
(n=658)



治安状況が良いと思う理由は、「犯罪の被害に遭った人が身近にいない」(78.9%)が最も多く、約8割を占めている。以下、「隣近所とのコミュニケーションが図られている」(39.2%)が約4割、「犯罪発生ニュース等を聞かなくなった」(30.2%)、「パトカーや警察官の姿をよく見かける」(29.3%)が約3割などとなっている。

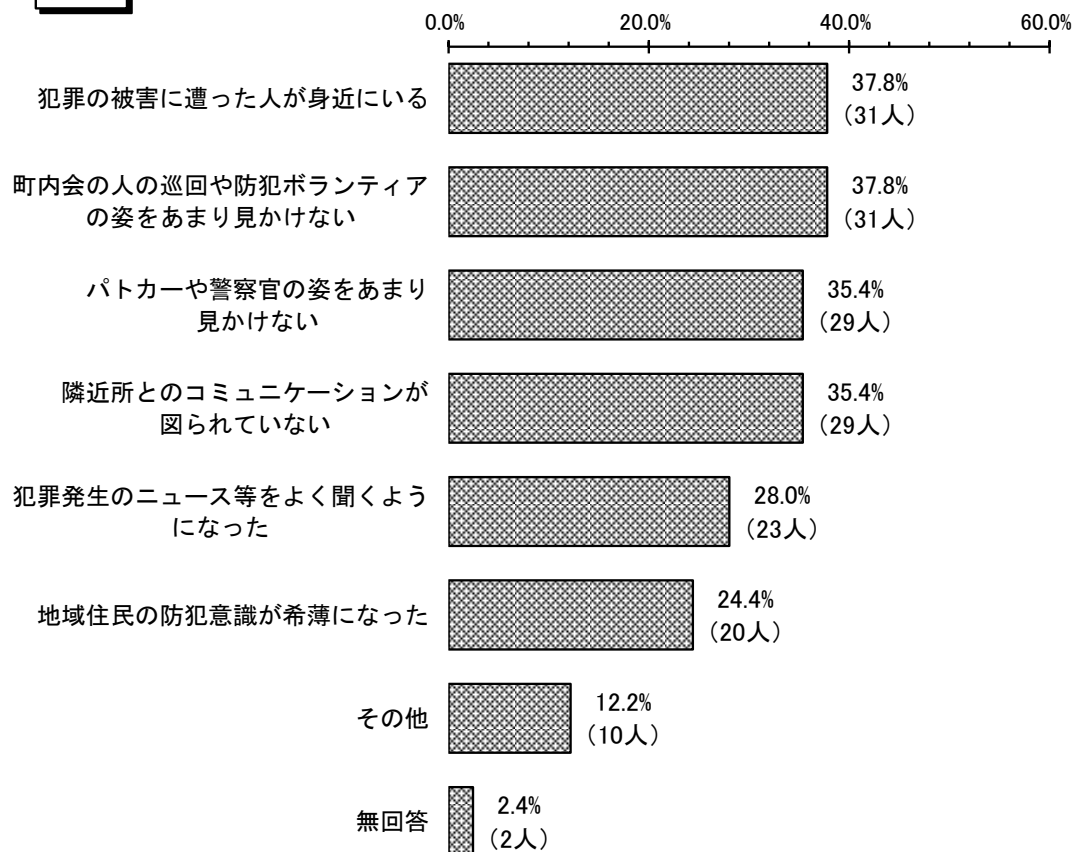
### (3) 治安状況が悪いと思う理由

(問 43 で、「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

問 44-2 問 43 で、悪いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体  
(n=82)

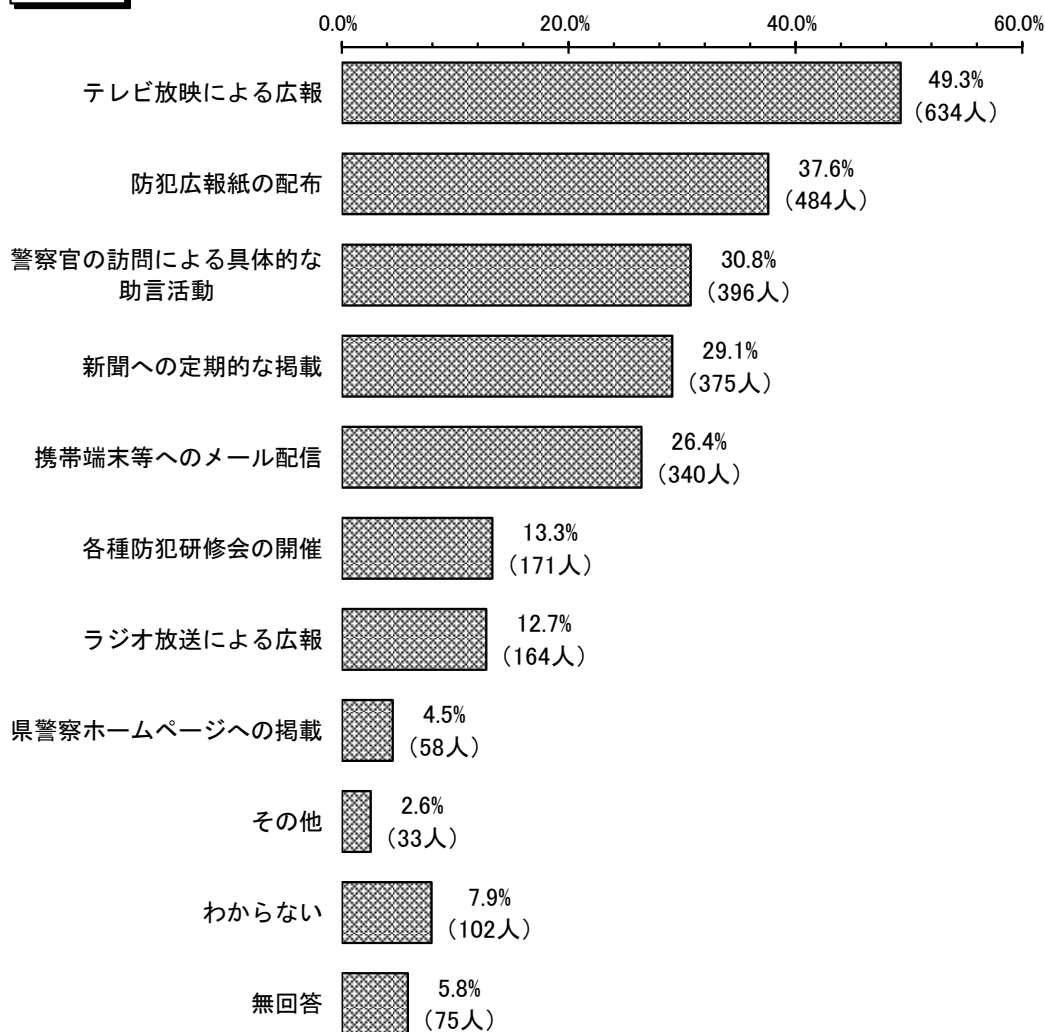


治安状況が悪いと思う理由は、「犯罪の被害に遭った人が身近にいる」、「町内会の人や防犯ボランティアの姿をあまり見かけない」（ともに 37.8%）が最も高く、4割弱を占めている。以下、「パトカーや警察官の姿をあまり見かけない」、「隣近所とのコミュニケーションが図られていない」（ともに 35.4%）が3割台などとなっている。

#### (4) 犯罪発生状況等の情報提供方法

問 45 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、  
どのような形で提供されるのがよいと思いますか。  
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

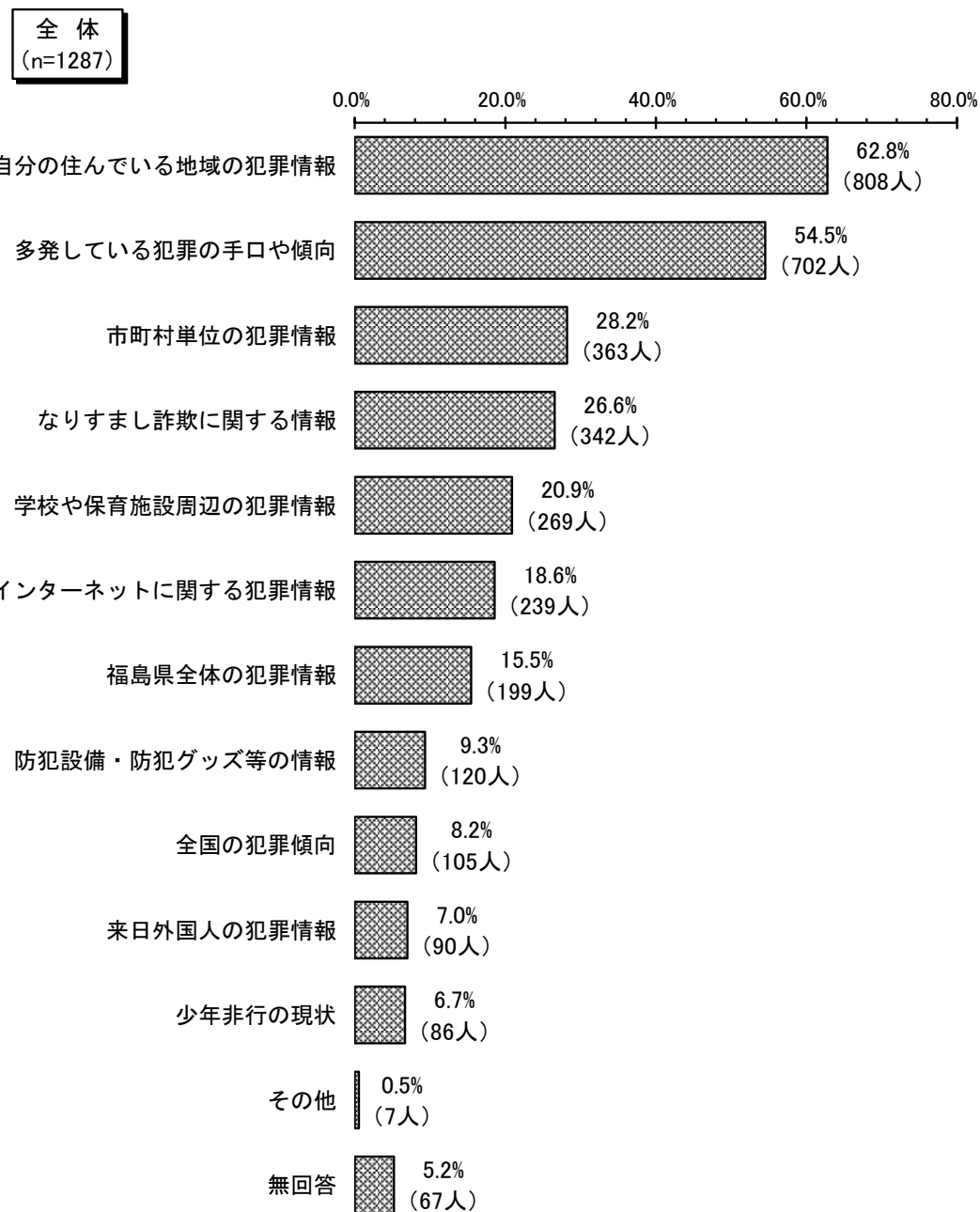
全体  
(n=1287)



犯罪発生状況等の情報提供方法については、「テレビ放映による広報」(49.3%)が最も高く、約5割となっている。以下、「防犯広報紙の配布」(37.6%)、「警察官の訪問による具体的な助言活動」(30.8%)、「新聞への定期的な掲載」(29.1%)が約3割などとなっている。

## (5) 犯罪に関して知りたい情報

問 46 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。  
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



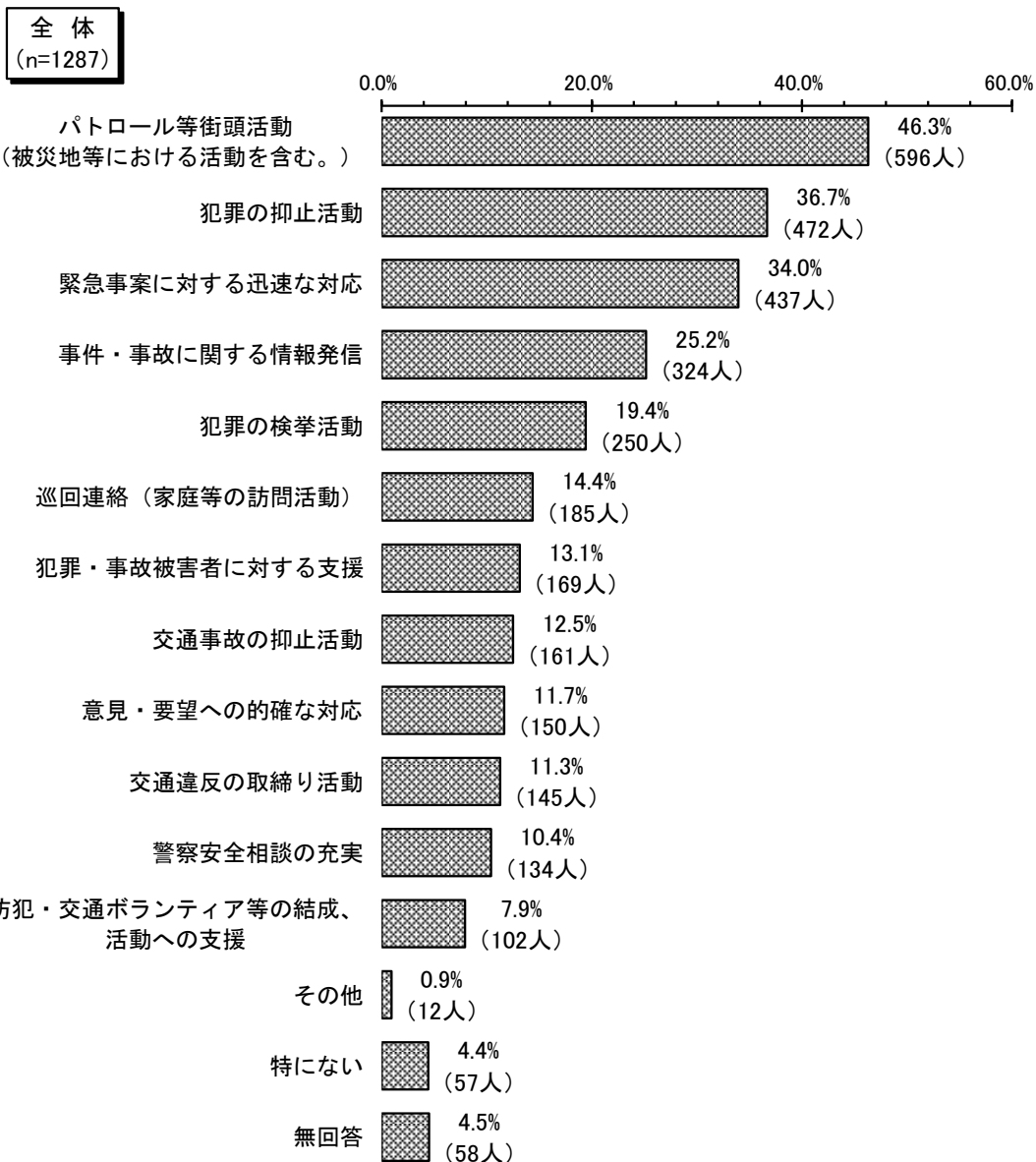
犯罪に関して知りたい情報は、「自分の住んでいる地域の犯罪情報」(62.8%)が最も高く、6割強を占めている。次いで、「多発している犯罪の手口や傾向」(54.5%)が5割半ばとなっている。以下、「市町村単位の犯罪情報」(28.2%)、「なりすまし詐欺に関する情報」(26.6%)、「学校や保育施設周辺の犯罪情報」(20.9%)が2割台などとなっている。



## (6) 警察に強化してほしい活動

問 47 安全・安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化してほしいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



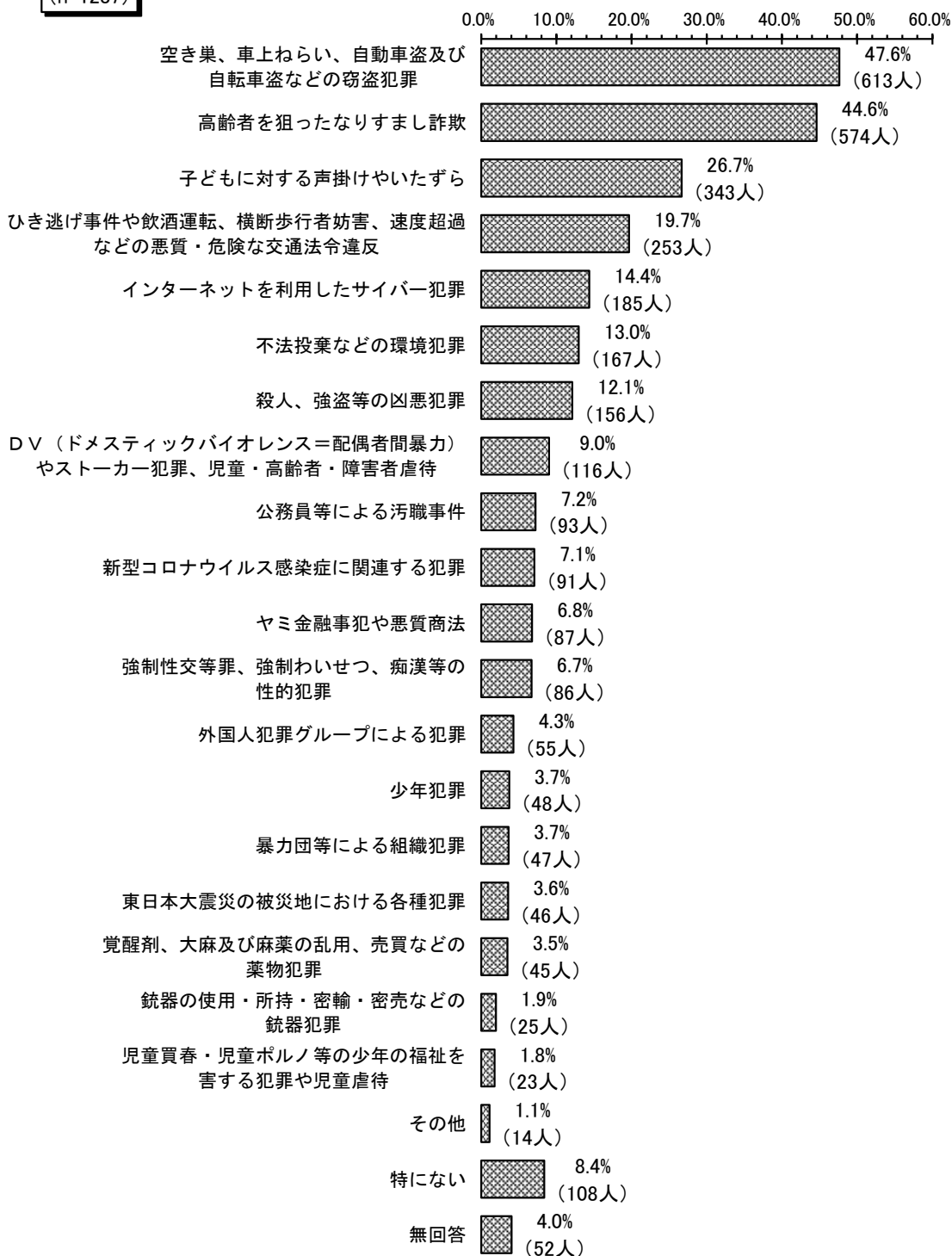
警察に強化してほしい活動は、「パトロール等街頭活動(被災地等における活動を含む。)」(46.3%)が最も高く、半数弱を占めている。以下、「犯罪の抑止活動」(36.7%)、「緊急事案に対する迅速な対応」(34.0%)が3割台、「事件・事故に関する情報発信」(25.2%)が2割半ば、「犯罪の検挙活動」(19.4%)が約2割などとなっている。

## (7) 重点的に取り締まってほしい犯罪

問 48 現在お住まいの地域で最も不安を感じ、今後重点的に取り締まってほしい犯罪は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体  
(n=1287)



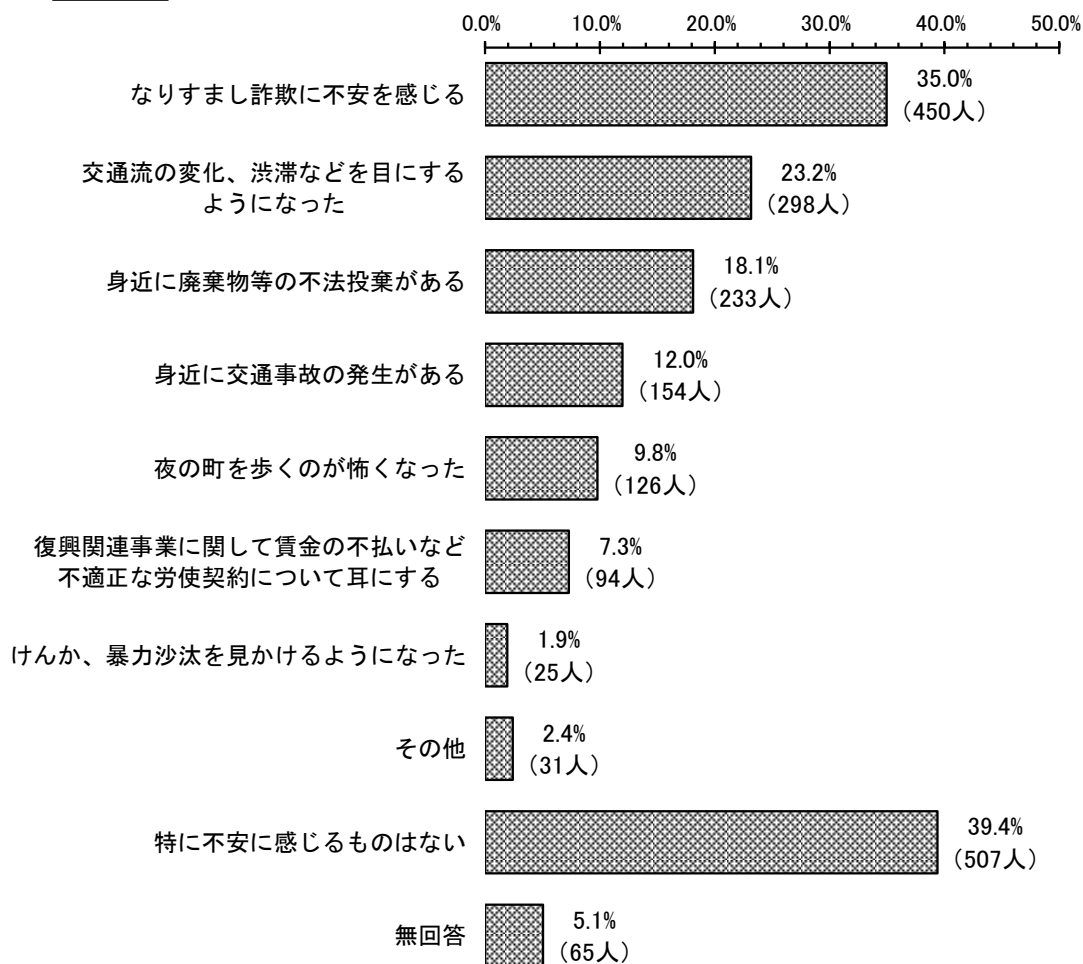
重点的に取り締まってほしい犯罪は、「空き巣、車上ねらい、自動車盗及び自転車盗などの窃盗犯罪」(47.6%)が最も高く、半数弱を占めている。以下、「高齢者を狙ったなりすまし詐欺」(44.6%)が4割強、「子どもに対する声掛けやいたずら」(26.7%)が3割弱、「ひき逃げ事件や飲酒運転、横断歩行者妨害、速度超過などの悪質・危険な交通法令違反」(19.7%)が約2割などとなっている。

## (8) 身近に感じる不安

問 49 震災から 11 年が経過しましたが、復興に伴い治安面で身近に感じる不安は何ですか。

あてはまるもの 3 つまで○をつけてください。

全体  
(n=1287)



身近に感じる不安については、「なりすまし詐欺に不安を感じる」(35.0%)が最も多く、3割半ばとなっている。次いで、「交通流の変化、渋滞などを目にするようになった」(23.2%)が2割強、「身近に廃棄物等の不法投棄がある」(18.1%)、「身近に交通事故の発生がある」(12.0%)が1割台で続いている。

なお、「特に不安を感じるものはない」(39.4%)が約4割を占めている。

### Ⅲ 調査票様式



#### IV 過去に実施した県政世論調査項目一覧





令和3年度（10項目37問） 標本数 2,000 回収率 65.2%

- (1) 復興等に関する情報発信について
- (2) 安全で安心な県づくりについて
- (3) 福島県の新しい総合計画について
- (4) 福島イノベーション・コースト構想について
- (5) チャレンジふくしま県民運動について
- (6) ユニバーサルデザインについて
- (7) 自転車の安全利用について
- (8) 食育について
- (9) 農林水産業について
- (10) 地域社会の安全・安心（治安）について

令和2年度（12項目29問） 標本数 1,300 回収率 64.5%

- (1) 復興等に関する情報発信について
- (2) キャッシュレス決済サービスの利用について
- (3) 安全で安心な県づくりについて
- (4) 県総合計画について
- (5) 福島イノベーション・コースト構想について
- (6) チャレンジふくしま県民運動について
- (7) 水環境について
- (8) ごみ対策について
- (9) 食育について
- (10) 農林水産業について
- (11) 福島県総合教育計画について
- (12) 地域社会の安全・安心（治安）について

令和元年度（11項目32問） 標本数 1,300 回収率 47.5%

- (1) 復興等に関する情報発信について
- (2) 安全で安心な県づくりについて
- (3) 県総合計画について
- (4) 福島イノベーション・コースト構想について
- (5) 土地利用について
- (6) チャレンジふくしま県民運動について
- (7) 生涯学習について
- (8) 生物多様性について
- (9) ユニバーサルデザインについて
- (10) 農林水産業について
- (11) 地域社会の安全・安心（治安）について

平成30年度（11項目27問） 標本数1,300 回収率49.1%

- (1) 福島イノベーション・コースト構想について
- (2) 復興に関する情報発信について
- (3) チャレンジふくしま県民運動について
- (4) ユニバーサルデザインについて
- (5) 農林水産業について
- (6) 水に関する意識について
- (7) 水道水の放射線物質検査について
- (8) 公共交通について
- (9) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (10) 安全で安心な県づくりについて
- (11) 県総合計画について

平成29年度（9項目26問） 標本数1,300 回収率54.7%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 福島イノベーション・コースト構想について
- (3) 買い物環境について
- (4) 水に関する意識について
- (5) 農林水産業について
- (6) チャレンジふくしま県民運動について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成28年度（7項目26問） 標本数1,300 回収率54.3%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 農林水産業について
- (3) 生物多様性について
- (4) 高校教育について
- (5) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (6) 安全で安心な県づくりについて
- (7) 県総合計画について

平成27年度（8項目28問） 標本数 1,300 回収率 54.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 青少年の健全育成について
- (4) ユニバーサルデザインについて
- (5) 農林水産業について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成26年度（8項目28問） 標本数 1,300 回収率 57.0%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 食育について
- (4) 農林水産業について
- (5) 廃棄物対策について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成25年度（8項目24問） 標本数 1,300 回収率 61.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 救急医療について
- (4) 農林水産業について
- (5) 生物多様性について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成24年度（9項目33問） 標本数 1,300 回収率 60.7%

- (1) 環境について
- (2) 水に関する意識について
- (3) 子育て支援策について
- (4) 青少年の健全育成について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) ジェネリック医薬品（後発医薬品）について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成23年度（7項目24問） 標本数1,300 回収率63.4%

- (1) 震災時及び現在における情報収集について
- (2) 男女共同参画の視点からの災害対応について
- (3) 心の健康について
- (4) 震災後の商業環境について
- (5) 芸術文化・スポーツ活動について
- (6) 震災後の県内の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて

平成22年度（8項目30問） 標本数1,300 回収率60.8%

- (1) 福島県農林水産物の消費拡大について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 生活習慣病予防対策について
- (4) 水について
- (5) 生物多様性について
- (6) 廃棄物対策について
- (7) 福島県総合計画について
- (8) 安全で安心な県づくりについて

平成21年度（7項目30問） 標本数1,300 回収率65.1%

- (1) 福島県の農業・農村の振興について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 食育について
- (4) 環境について
- (5) 青少年の健全育成について
- (6) 土地利用について
- (7) 福島県の新しい総合計画について

平成20年度（5項目28問） 標本数1,300 回収率64.2%

- (1) 安心・安全な県産農産物の生産拡大について
- (2) 地域社会の安全、安心について
- (3) 保健福祉関連事業について
- (4) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について
- (5) ユニバーサルデザインについて

平成19年度（5項目23問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 「ふくしま食と農の絆づくり運動」について
- (2) 警察活動について
- (3) 「がん」に関する意識について
- (4) 県庁の組織名及び職名について
- (5) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成18年度（6項目21問） 標本数 1,300 回収率 58.5%

- (1) 犯罪に関する意識について
- (2) 化学物質について
- (3) 有機農産物に対する認知度と消費動向について
- (4) 食育について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成17年度（6項目24問） 標本数 1,300 回収率 59.3%

- (1) 森林と県民生活について
- (2) 水について
- (3) 電子社会の推進と現状について
- (4) 運動・スポーツに関する実態について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成16年度（5項目27問） 標本数 1,300 回収率 61.8%

- (1) 安全に安心して暮らせる地域社会について
- (2) 地域温暖化防止のためのエコライフについて
- (3) 心の健康について
- (4) 文化に関する意識について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について

平成15年度（5項目34問） 標本数 1,300 回収率 62.2%

- (1) お米の消費実態と福島米への要望について
- (2) 交通安全教育について
- (3) 環境保全への取り組みについて
- (4) エネルギー政策について
- (5) 県政への要望について

平成14年度（4項目30問） 標本数 1,000 回収率 60.5%

- (1) 地産地消について
- (2) IT革命の現状と課題について
- (3) ボランティア活動について
- (4) 食品の安全確保について

平成13年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率58.0%

- (1) ユニバーサルデザインについて
- (2) “うつくしま、ふくしま。”県民運動について
- (3) 環境保全について
- (4) 県民生活と森林づくり運動について
- (5) 新エネルギーについて
- (6) 人権問題について

平成12年度（4項目31問） 標本数1,000 回収率62.2%

- (1) 行政情報化について
- (2) 魅力ある観光地づくりについて
- (3) うつくしま未来博について
- (4) 運動・スポーツについて

平成11年度（6項目34問） 標本数1,000 回収率64.4%

- (1) 福島県の教育について
- (2) 高齢社会について
- (3) 住民参加について
- (4) 行財政改革について
- (5) 土地利用について
- (6) 県への要望について

平成10年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率66.9%

- (1) 子育てについて
- (2) 生涯学習について
- (3) 安全な生活について
- (4) 魅力ある観光地づくりについて
- (5) 地方分権について
- (6) 県への要望について



令和4年度

# 県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

福島県 総務部 県民広聴室

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話 (024) 521-7013